

TEIKYO UNIVERSITY MUSEUM

TEIKYO UNIVERSITY MUSEUM

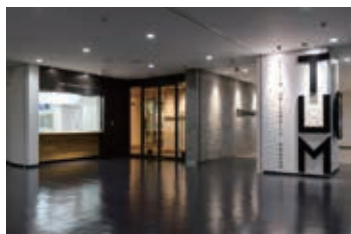
TEIKYO UNIVERSITY MUSEUM

帝京大学総合博物館 館報

創刊号

2015・2016(平成27・28)年度

帝京大学総合博物館



# 帝京大学総合博物館 館報

創刊号

2015・2016(平成27・28)年度

## 目次

I	帝京大学総合博物館概要	3
1	帝京大学総合博物館開館の経緯	4
2	帝京大学総合博物館の設備	4
	帝京大学総合博物館（仮称）の設置に関わる指針（抜粋）	6
II	事業報告	9
1	展覧会事業	10
	（1）企画展	10
	出品目録	22
	（2）その他展覧会	35
	（3）常設展	36
2	教育・情報公開事業	37
	（1）授業連携	37
	（2）情報公開	37
3	資料管理・収集・調査事業	38
	（1）資料管理	38
	（2）調査研究	38
III	資料	39
1	開館状況	40
2	展覧会別入館者数	41
3	授業利用	43
4	団体見学	43
5	外部視察	44
6	組織	45
7	施設概要	46
IV	論文・研究報告	47
	[研究ノート] 「文化財」と「文化遺産」の語について	
	今村啓爾	48
	[収蔵作品紹介] 狩野探幽《不二（富嶽図）》と横山大観《残月》	
	—近世から近代に流れる日本画の水脈—	
	岡部昌幸	52
	[公開座談会記録] 私のキャンパスライフ	
	話し手：水落寛二氏	57
	聞き手：堀越峰之	

# I 帝京大学総合博物館概要

# 1 帝京大学総合博物館開館の経緯

## ■はじめに

帝京大学の原点は、1931（昭和6）年「人格の陶冶」「実践的教育」「武道体育奨励」を教育方針とした帝京商業学校の創立にさかのぼる。その後、アジア・太平洋戦争や高度経済成長期を経験し、その教育精神を受け継ぐ高等教育機関として1966（昭和41）年に帝京大学が創立した。創立当初は、文学部・経済学部の2学部、募集定員200名の小さな大学だったが、2016（平成28）年に創立50周年を迎えた本学は、人文系・理系・医療系の10学部30学科を擁し、板橋キャンパス・八王子キャンパス・宇都宮キャンパス・福岡キャンパス・霞ヶ関キャンパスの合計5つのキャンパスを持つ総合大学となっている。現在、各キャンパスでは、教育研究活動を充実させるため設備面を中心にリニューアル工事が随時実施中である。その他、大学の社会連携や地域貢献活動の拠点とするための研究所やセンターが次々に設置も進められている。本館もそれらの一環として設置されることになった。

## ■大学博物館としての社会的役割

大学の運営には公的資金が投入されており、そこでおこなわれている教育研究活動の成果は社会に広く還元させるべきものである。さらに、本学は毎年約4,000名の卒業生を社会に送り出しており、どんな建学の精神に基づき社会に人材を送り出しているのかも広く知らせる必要がある。本学には、帝京商業学校設立以来の教育の歴史と、数多くの研究活動の成果が蓄積され続けている。しかしながら、それらに一般の人々は触れる機会がない。そこで、本館ではそれらの活動に伴って生み出されたり、集められたりした実物資料を基礎にすることにより、本学の活動の成果を社会に公開することを目指した。

## ■博物館開館までの概要

帝京大学にミュージアムを、という構想は1996年頃にはすでに形をとりつつあった（『帝京大学所蔵絵画図録2010』による）が、本格的なミュージアムプランが浮上したのは八王子キャンパスに新棟（現在のソラティオスクエア）が建設されることが決定したあとの2010年夏のことであった。その後、新棟の設計は着々と進行し、翌年には博物館の規模と位置が地下1階のほぼ現在ある通りに決定された。

この時期まで博物館開設の準備は、帝京大学文化財研究所が展示内容等について計画を作成し、八王子キャンパス事務部が開設業務を行っていたが、2012年10月、最初の学芸員着任を受けて、2013年4月に帝京大学博物館開設準備室が正式に発足した。

博物館設置にあたっては2013年冬に「帝京大学総合博物館（仮称）の設置に関わる指針」（6頁～8頁に掲載）を策定し、それに則って準備が進められた。設置の目的は「本学の教育・研究活動と連携し、総合的・学際的な活動を行いその向上を図るとともに、それに必要な、歴史、芸術文化、自然等の資料を収集・保管する。あわせて教育・研究活動の成果を公開や、他機関との連携を通じて、大学の社会貢献を推進する事を目的」とし、目的を達成するために以下の機能を持たせる事とした。

- 1 博物館を利用した実践的な教育活動の推進
- 2 学内の総合的・学際的な調査・研究活動の推進
- 3 大学所蔵資料の集約、新規資料の収集・保管
- 4 展示や出版活動を通じた教育・研究成果の公開
- 5 社会貢献・地域連携の推進

そして、2014年春から展示設計を開始すると同時に、準備段階で各部局が所蔵している学術的な資料の調査を随時実施した。その結果、学内に多数の資料が保管されていることが明らかになった。これらの資料は体系的に整理されていないものが多く、一般公開が困難なものもあったが、本学の教育研究の活動の一端を示す貴重な資料である。今後は、それぞれの資料をさらに調査し、展覧会等で公開していく予定である。

2015年春に設計が終了すると共に施工を開始し、設計からオープンまで1年半という非常にタイトなスケジュールであったが、2015年9月14日に開館するに至った。

# 2 帝京大学総合博物館の設備

博物館は、キャンパス内にあるソラティオスクエア（地上22階、地下2階）の地下1階部分に設置された。館内の雰囲気は、比較的明るめな空間となっており、ガラスの壁面と木目の床材を組み合わせる開放的なイメージを演出している。展示室は、常設展示室と企画展示室に分かれており、常設展示室は帝京大学の「歴史」と「今」を紹介する『帝京大学のあゆみ』と、八王子キャンパスが所在する多摩地域の歴史と自然について、本学が所蔵する資料を中心に紹介する『多摩の歴史と自然』の2つの展示室で構成されている。企画展示室では、本学が所蔵する貴重な学術資料や研究成果等を随時公開する場所となっている。その他、収蔵庫やセミナー室、実験作業室なども備えている。



エントランス



ミュージアムプラザ



帝京 History



帝京 Now



多摩の歴史と自然



企画展示室



セミナー室



収蔵庫

# 帝京大学総合博物館（仮称）の設置に関わる指針（抜粋）

平成 25 年 12 月策定

## 第 1 章 設置目的

帝京大学総合博物館（仮称）は、本学の教育・研究活動と連携し、総合的・学際的な活動を行いその向上を図るとともに、それに必要な、歴史、芸術文化、自然等の資料を収集・保管する。あわせて教育・研究活動の成果の公開や、他機関との連携を通じて、大学の社会貢献を推進する事を目的とする。そして、以下の機能を持つ。

- 1 博物館を利用した実践的な教育活動の推進
- 2 学内の総合的・学際的な調査・研究活動の推進
- 3 大学所蔵資料の集約、新規資料の収集・保管
- 4 展示や出版活動を通じた教育・研究成果の公開
- 5 社会貢献・地域連携の推進

## 第 2 章 帝京大学総合博物館（仮称）の目指す博物館像

### 1 成長し続ける博物館

帝京大学は古文書や考古学資料、絵画資料などを所蔵しているほか、総合大学として多くの専門的な研究成果や学生の活動の成果が、大量に蓄積されている。それらの内容を展示公開し、それに関連する情報や物的資料を博物館が収集・保管する。その他、中長期的に博物館が中心となっていく活動課題を設定し、新規資料の収集や調査・研究を行いその成果を蓄積していく。この活動を継続的に進める事で「成長し続ける博物館」を目指す。

### 2 アクティブな博物館

一般に「静的」なイメージで語られがちな博物館だが、本博物館は、「動的」な部分を前面に押し出し、学部・学科等と協力し、総合的・学際的な研究活動や展示活動、地域貢献活動、学生教育活動等を活発に行うアクティブな博物館とする。

### 3 学生が展示をつくる博物館

学生の興味関心に応じて調査・研究し、その成果を博物館の展示として公開する機会を提供し、あわせてその活動を通じて学生が実践的な学びが行える博物館とする。

### 4 地域の教育・文化の拠点となる博物館

地域社会の教育的なニーズを満たす役割を果たす。あわせて地域の自然環境や文化遺産を保護・継承し、新たな地域社会のアイデンティティの創造を支援するため地域住民や産官学との交流の拠点となる博物館を目指す。

### 5 「基準」を満たした博物館

社会的信頼を獲得するべく「博物館の設置及び運営上望ましい基準」を満たす博物館とし、博物館法上の「博物館相当施設」の指定を目指す。

## 第 3 章 事業計画と設備

博物館の目的を達成するために以下の事業を行うとともに、必要な設備を設置する。なお、事業の詳細については、「博物館中期計画」を策定し、年次ごとに事業計画を作成することとする。

### 1 学生教育の支援

○概要…学芸員養成課程や学部・学科等の学習意欲や教育効果を高める実践的な教育活動の支援を行う。

○内容

- ・学芸員養成課程と連携し、博物館の資料や設備を利用した実践的な講義等を行う。
- ・その他、学部・学科等の教育活動の支援を行う。そのための少人数（40 人程度）の講義が行えるような多目的室を設置する。
- ・帝京大学小学校をはじめとした周辺地域の幼・小・中・高・特別支援学校等と連携して教育プログラムの開発を行う。

### 2 調査・研究の実施・支援

○概要…大学の研究活動をより一層推進・活性化させるため、学部・学科等の垣根を越えた、総合的・学際的な研究を行う拠点とする。

○内容

- ・博物館独自のテーマを設定し、研究する。
- ・博物館が学部・学科等の研究活動の支援を行い、共同で総合的・学際的な研究活動を行う。

- ・博物館が所蔵する資料についての問い合わせや閲覧等の対応を行う。
- ・実験・作業室を設置し、研究活動に必要な機器等を設置する。

### 3 資料収集・保管

○概要…教育・研究活動を行うために必要な、大学所蔵資料を集約して保管する。あわせてそれらの活性化を図るために必要な、歴史、美術、自然等の新規資料を収集し保管する。

○内容

- ・大学に所蔵されている貴重資料の散逸を防ぐために、資料を集約する。
- ・新規資料の収集については、中長期的に資料の収集計画を策定し、収集された資料は博物館にて恒久的に保管する。
- ・資料の保存環境については、それぞれ最適な保存環境が異なるため、「一般収蔵庫」と「特別収蔵庫」を設置する。
- ・空調や消火設備についても資料の恒久的な保管に最適なものを導入する。

### 4 展示・公開

○概要…開学以来蓄積された教育・研究活動の成果を展示や出版活動を通じて社会に発信する。

○内容

#### (1) 展示

大学史展示、常設展示、企画展示、学生制作展示等を行い、機能別の展示室を設ける。大学史及び常設展示は、適宜追加・更新する。企画展示・学生展示については、期間を限って設置する仮設的な展示とする。

##### ①大学史展示

1931年設立の帝京商業学校から現在の帝京大学までの沿革を展示する。あわせて帝京大学の各キャンパスの最新の教育・研究成果や活躍する卒業生・スポーツ等の展示を設置する。

##### ②常設展示

帝京大学八王子キャンパス周辺の多摩川中流域と大都市、江戸・東京をはじめとした周辺地域の関係をテーマに展示する。また、大学が所蔵する地域の考古学資料や古文書を利用した周辺地域の歴史展示を展開する。

##### ③学生展示

学芸員養成課程を中心に、様々なテーマを設定し調査研究活動を行い、その成果を展示という形で学生自ら制作・設置し公開する。

##### ④企画展示

大学が所蔵する貴重資料の展示を行うとともに学部・学科等の研究成果を展示する。内容については、八王子キャンパスで行われる教育・研究成果が中心となるが、分野が偏らないよう他キャンパスの教育・研究成果も適宜企画展示として公開する。設備としては、様々な展示に対応可能なテンポラリー展示室を設置する。

#### (2) 出版

教育・研究活動の成果を博物館紀要としてまとめ出版する。その他、活動の記録として展覧会の展示図録の作成や博物館所蔵資料の目録の作成を行い、一般の興味関心に資するだけでなく、学内外の教育者や研究者への資料提供も行う。

#### (3) 広報

ニュースレターやホームページを作成し、博物館の活動についての最新情報を適宜、広報活動を行う。

### 5 社会貢献・地域連携

○概要…地域住民の高度な専門的な学習に対するニーズを満たすために社会教育・生涯学習活動を支援し、社会に貢献する。あわせて、産官学と連携し地域の歴史、芸術文化、自然や地域振興等の共同調査・研究や支援活動を行う。

○内容

#### (1) 他機関との共同研究・支援活動

他の博物館・地域の行政・大学・企業等と連携し地域の歴史、芸術文化、自然や地域振興等の共同調査・研究や支援活動を行う。

#### (2) 公開講座等

地域の教育機関として、教育・研究活動の成果を公開講座という形で社会に学術情報を公開する。対象は一般住民となるが、児童生徒向けのワークショップも行う。

## 第4章 運営体制

博物館を継続的に運営していくためには、組織の検討、人員の確保、予算の確保が必要となる。あわせて、「中長期計画」及び、「年次計画」を作成する。

### 1 名称

分野を融合した総合的・学際的な教育・研究活動を実施・支援する事から「帝京大学総合博物館」とする。

### 2 組織

博物館が独立組織として位置づけられる必要がある。



### 3 委員会等

- (1) 博物館運営委員会
  - ・博物館の運営全般について審議するために博物館運営委員会を置く。
  - ・構成員は、館長、各学部等より選出した者とする。
- (2) 博物館企画委員会
  - ・博物館の事業について企画し、審議するための博物館企画委員会を置く。
  - ・構成員は、学芸員課程担当教員を中心に博物館の運営に関わる者より選出する。

### 4 人員体制

事業計画に合わせて職員体制を検討する必要がある。

- (1) 館長  
館の業務を統括する。
- (2) 教員（専任又は兼任）  
学部・学科との教育・研究活動のスムーズな連携や支援活動を行う。
- (3) 学芸員  
博物館の運営の中核となる専門職員。博物館資料の収集・保管・展示・調査研究等を掌る。
- (4) 事務員  
一般事務・広報・利用者対応・施設の管理等を行う。
- (5) 研究員・客員研究員  
博物館の研究活動を活性化させるため研究員又は、客員研究員を置く。
  - ①研究員は本学の教員とする。
  - ②客員研究員は、外部の研究者とする。

### 5 予算

博物館の目的を達成するためには、事業を行うための予算的な裏付けが必要である。

- (1) 管理運営費  
(人件費、旅費、建物管理費、光熱水費、保険料、清掃費、警備費、通信費、事務費、減価償却費等)
- (2) 資料収集費  
(資料の購入費、寄贈受入経費、資料の複製製作経費等)
- (3) 資料管理費  
(収蔵品の燻蒸)
- (4) 調査研究費  
(調査研究費、研究器具購入費、図書費等)
- (5) 展示費  
(調査費、借用費、運搬費、広報費、印刷製本費等)
- (6) 教育活動費  
(講演会等の運営費)
- (7) その他

### 6 開館日時、休館日、セキュリティ対策

社会に開かれた博物館として小中高校生や一般市民が来館しやすい環境を整え、本学学生が授業の一環として、あるいは個人として利用しやすい施設とする。そのために、少人数スタッフで管理可能な運営方法をとつつなるべく開館日数を多く設定する。同時に、機械警備等を充実させ、多数かつ多様な来館者に対応した来館者・展示品双方の安全対策を徹底する。

### 7 中長期計画及び年次計画の作成

博物館の目的を達成するために中長期計画及び年次計画の作成が必要である。博物館で中長期的に取り扱うテーマを設定し、それに即し教育・研究活動の支援・実施を行う。

## Ⅱ 事業報告

# 1 展覧会事業

## (1) 企画展

### 帝京大学総合博物館 開館記念特別展

#### アカデミックトレジャーズ展 - 帝京大学「知」の集積 -

##### ① 実施概要

主催 帝京大学総合博物館  
会期 平成27年9月14(月)～平成28年1月15日(金) 89日間  
会場 帝京大学総合博物館企画展示室  
入場者数 17,400名  
企画構成 堀越峰之(帝京大学総合博物館学芸員)・加藤稚佳子(帝京大学総合博物館学芸員)  
展示担当者(執筆者)

山川達郎(帝京大学医学部名誉教授)・藤野昇三(帝京大学医学部附属溝口病院外科教授)・笹原潤(帝京大学医学部整形外科学講座医局長)・山岡法子(帝京大学薬学部薬学科講師)・村田郁子(帝京大学薬用植物園)・細田明宏(帝京大学文学部日本文化学科准教授)・福井淳哉(帝京大学文学部日本文化学科准教授)・岡部昌幸(帝京大学文学部史学科教授)・小山勝美(帝京大学大学院日本史・文化財学専攻博士前期課程)・久保田弘敏(帝京大学理工学部客員教授)・河村政昭(帝京大学理工学部航空宇宙工学科講師)・南啓治(帝京大学総合博物館館長)・鈴木稔(帝京大学総合博物館副館長)・堀越峰之(帝京大学総合博物館学芸員)

##### ② 概要

帝京大学の各キャンパスでは、それぞれ特色を持った教育・研究活動が行われている。その過程で収集された様々な資料が蓄積されており、これらは貴重な学術資料として保管されている。同時に最先端の研究活動も様々な形で展開されている。しかしながら、それらに一般市民が接する機会は限られている状況である。本特別展は、貴重な学術資料や研究活動の成果物を博物館で厳選して一堂に展示する事により、帝京大学の教育研究活動の成果を社会に広く公開しようとするものである。実施に際しては、事前に全キャンパスに貴重な資料や研究成果についての問い合わせを行った。その調査で得られた回答を基礎にして、展示資料の選択を行った。全キャンパスと関わって事業を実施することは、キャンパス間の立地場所が離れている事から様々な困難を伴ったが、各担当教職員と連携を図り実施に至った。

##### ③ 展示構成

###### 展示室Ⅰ 医療の進歩

「医療の進歩」と題して、近世～明治期に活躍した医学者が旧蔵していた古文書(帝京大学医学総合図書館所蔵)や生薬標本のコレクション(帝京大学薬学部薬用植物園蔵)、帝京大学客員教授であった渡辺正毅が1960年代に開発した関節鏡の実物や帝京大学名誉教授の山川達郎による内視鏡研究について紹介した。

###### 展示室Ⅱ 日本の文化

「日本の文化」と題して、帝京大学メディアライブラリーセンターに所蔵されている、19世紀フランスで作成された書籍「小さな日本人たち」、近世の川柳雑誌「誹風柳多留」、元帝京大学教授の角田一郎氏が収集した浄瑠璃本を紹介した。その他、帝京大学書道文化研究所で所蔵している書作品、帝京大学が所蔵している近世・近代の日本画、やまなし伝統工芸館が所蔵している山梨県の伝統工芸作品を紹介した。

###### 展示室Ⅲ 大学発人工衛星プロジェクト

「大学発人工衛星プロジェクト」と題して、帝京大学理工学部の工学系クラブ「宇宙システム研究会」が開発した小型人工衛星「TeikyoSat-3」について紹介した。あわせて、宇都宮キャンパス格納庫内に展示されている、人工衛星模型やフェアリングの展示もおこなった。

##### ④ 制作物

イ ポスター 100枚  
ロ リーフレット 3,000部  
リーフレット名 『アカデミックトレジャーズ展 - 帝京大学「知」の集積 -』  
発行部数 3,000部 (A4判 中綴じ 10頁)



ポスター



会場入口 1



会場入口 2



展示室I 「医療の進歩」



京都医家 前田松閣文書



薬用植物園の歴史と収集された生薬標本



渡辺正毅氏開発関節鏡



帝京大学の内視鏡研究



展示室Ⅱ 日本の文化



小さな日本人たち



俳風柳多留



大学所蔵芸術作品



浄瑠璃本コレクション



展示室Ⅲ 大学発人工衛星プロジェクト



TeiyoSat-3

# 帝京大学創立 50 周年企画展示

## 「50 年前の帝京大学～ 1960 年代後半、多摩丘陵でのキャンパスライフ～」

### ① 展覧会詳細

主 催 帝京大学総合博物館  
会 期 平成 28 年 4 月 7 日 (木) ～平成 28 年 7 月 27 日 (水) 87 日間  
※休館日：日曜日・授業日でない祝日  
会 場 帝京大学総合博物館企画展示室  
入場者数 10,672 名  
企画構成 堀越峰之 (帝京大学総合博物館学芸員)

### ② 概要

帝京大学は、2016 年に創立 50 周年を迎えた。博物館では帝京大学の歴史を展示しているが、創立期に限っての展示は今まで行った実績は無かった。その理由として、その頃の資料が断片的にしか残されていないことや、当時の教職員、学生の聞き取り調査などが実施されておらず、当時の様子が再現不可能だったためである。

このような状況を改善すべく、創立期の写真や学生生活に関わる資料を収集し、当時学生であった OB を中心に聞き取り調査を実施し、多くの成果があった。

本展覧会はその成果を基礎にして、帝京大学は、なぜ 1966 年に創立したのか、そして都心部から離れた多摩丘陵に建設されたのか、あわせてキャンパスライフはどんなものだったのかを明らかにすることを目的とした。この目的を達成するために、社会情勢、産業構造の変化、高度経済成長期等をキーワードとして、1960 年代がどんな時代だったのか、そして、その状況の中で長い伝統を持った都心部の大学生がどのように反応したのかを主に写真資料を基に展示した。そこと対比する形で、帝京大学の創立の背景と、そこでのキャンパスライフを写真資料を中心に展示した。

展示以外にも、実際に創立期に学生生活を送った OB を招いての座談会等を実施した。

### ③ 展示構成

#### 第 1 章 帝京大学が生まれた時代の社会と大学生

帝京大学が創立した 1960 年代はどのような時代だったのか、その時代に大学生はどんな学生生活を送っていたのかを、当時の写真や映像、発売された商品などを通して紹介した。

#### 第 2 章 50 年前の帝京大学とその周辺の様子

1960 年代後半のキャンパス内の様子や、その周辺の町並み等の写真を展示した。

#### 第 3 章 50 年前のキャンパスライフ

50 年前の帝京大学でのキャンパスライフと、学生の様子を紹介。卒業アルバムに掲載された写真、入学許可証、時間割、学園祭のパンフレット等の展示を行った。

### ④ 関連事業

#### イ 展示説明会

実施日 第 1 回 平成 28 年 4 月 13 日 (水) 14:45～15:15

第 2 回 平成 28 年 5 月 21 日 (土) 11:45～12:15

講 師 担当学芸員 参加者数 延べ 5 名

概 要 「50 年前の帝京大学～ 1960 年代後半多摩丘陵でのキャンパスライフ」の展示解説会

#### ロ 公開座談会 「私のキャンパスライフ～ 50 年前の帝京大学のようす～」

実施日 平成 28 年 4 月 20 日 (水) 14:45～16:00

講 師 水落寛二 (帝京大学法学部 2 期生) 参加者数 11 名

概 要 講師に本学 OB を招き、創立期の帝京大学での学生生活についての公開座談会

#### ハ 講演会 「1960 年代の生活と文化」

実施日 平成 28 年 5 月 25 日 (水) 14:45～16:00

講 師 鈴木稔 (帝京大学大学院日本史・文化財学専攻教授、帝京大学総合博物館副館長)

会 場 博物館セミナー室 参加者数 31 名

概 要 1960 年代の大衆文化についての講演会

⑤ 印刷物等

イ チラシ 6,000部

ロ ポスター 30部

ハ 展覧会図録

図録名 『50年前の帝京大学～1960年代後半、多摩丘陵でのキャンパスライフ～』

発行部数 1,500部 (A4判 中綴じ 36頁)



ポスター



チラシ(表)



チラシ(裏)



会場入口



第1章 帝京大学が生まれた時代の社会と大学生



社会構造の変化



1960年代の大学生活



1960年代の雑誌



学生生活と学生運動



第2章 50年前の帝京大学とその周辺の様子



第3章 50年前のキャンパスライフ



1960年代の帝京大生



受験票、入学許可証など



第2回帝京祭パンフレット



公開座談会のような



# 帝京大学創立 50 周年記念特別展示

## 「世界にはばたく！伝統人形芝居－八王子車人形の世界」

### ① 展覧会詳細

主催	帝京大学総合博物館
協力	八王子車人形西川古柳座
後援	八王子市 八王子市教育委員会
会期	平成 28 年 5 月 16 日(月)～平成 28 年 7 月 27 日(水) 65 日間 ※休館日：日曜日・授業日でない祝日
会場	帝京大学総合博物館企画展示室
入場者数	7,794 名
企画構成	加藤稚佳子（帝京大学総合博物館学芸員）
監修・原稿執筆	細田明宏（帝京大学文学部日本文化学科准教授）

### ② 概要

車人形は日本の伝統的な人形芝居の 1 つで、底に車輪がついた箱に腰を掛けて人形を使う。人形浄瑠璃文楽で用いられる 3 人使いでは 3 人の人形使いが 1 体の人形をあやつるが、車人形はさまざまな工夫を施すことによって、3 人使いの人形を 1 人で使うようにしている。車人形は徳川時代末期に考案され、明治前期には数十の座が多摩地域とその周辺で活動していた。現在では八王子市の他、奥多摩町、三芳町で傳承されている。八王子市恩方を本拠地とする西川古柳座はおよそ 170 年の歴史を持ち、選択無形民俗文化財、東京都指定無形文化財となっている。その高い技術と幅広い表現力は国内の活動に留まらず、国際的にも高く評価され海外公演や指導をおこなっている。また新作も上演し、新たな試みにも挑戦している。本展では、車人形の成り立ちと仕組み、そして現在の活動について紹介した。

### ③ 展示構成

#### 第 1 章 八王子車人形の成り立ち

車人形の成り立ちや、その背景、八王子車人形西川古柳座の歩みについて紹介した。あわせて明治期に実際に使われた衣装等の展示をおこなった。

#### 第 2 章 車人形のしくみ

車人形の要素である、「箱車」「手」「足」「カシラ」のしくみについて紹介するために、実際に公演で使用されている人形の展示をおこなった。

#### 第 3 章 西川古柳座の活動～新作と海外公演～

新作の上演や海外公演、伝統文化の普及活動など幅広い活動を行っている西川古柳座の現在の様子を人形や公演映像等を通じて紹介した。

### ④ 関連事業

#### イ ワークショップ「車人形のしくみを知ろう！」

実施日 平成 28 年 5 月 19 日(木) 計 4 回 12:30～ 13:30～ 14:45～ 16:30～

講師 5 代目西川古柳（八王子車人形西川古柳座家元）

会場 博物館セミナー室 参加者人数 延べ 82 名

概要 車人形について初歩から学べるワークショップ

#### ロ ミニ公演会 ～人形解説つき～

実施日 平成 28 年 6 月 4 日(土) 13:00～14:30

出演 八王子車人形西川古柳座

会場 博物館セミナー室 参加者数 36 名

概要 八王子車人形西川古柳座によるミニ公演会

#### ハ ワークショップ「車人形に触れてみよう」

実施日 第 1 回 平成 28 年 5 月 24 日(火) 第 2 回 平成 28 年 5 月 25 日(水) 第 3 回 平成 28 年 5 月 31 日(火) 各回 13:00～

講師 菱山里美（帝京大学文学部史学科 4 年生）

会場 博物館企画展示室 参加者数 延べ 12 名

概要 車人形の実物に触りながら、車人形について知ってもらうワークショップ

ニ ワークショップ「車人形の表現～喜怒哀楽と『型』」

実施日 平成 28 年 6 月 18 日(土) 13:00～14:30

講師 5代目西川古柳(八王子車人形西川古柳座家元)  
細田明宏(帝京大学文学部日本文学学科准教授)

会場 博物館セミナー室 参加者数 38名

概要 車人形の多彩な表現に触れ、あわせて展覧会解説も行うワークショップ

ホ 講演会「八王子車人形の伝統と改革－転機となった昭和 50 年代」

実施日 平成 28 年 7 月 2 日(土) 10:00～11:30

会場 博物館セミナー室

講師 細田明宏(帝京大学文学部日本文学学科准教授) 参加者数 10名

概要 八王子車人形が飛躍を遂げるにあたって、昭和 50 年代にどのような改革がなされたのかについての講演会

⑤ 印刷物等

イ チラシ 10,000部

ロ ポスター 120部

ハ 展覧会図録

図録名 「世界にはばたく！伝統人形芝居－八王子車人形の世界」

発行部数 1,500部 (A4判 中綴じ 14頁)



ポスター



チラシ(表)



チラシ(裏)



会場入口



第1章 八王子車人形の成り立ち



第2章 車人形のしくみ



第3章 西川古柳座の活動



海外公演



『一谷嫩軍記』



女形の人形



ミニ公演会



ワークショップ



ワークショップ

# 帝京大学創立 50 周年記念・帝京大学書道研究所創設 40 周年記念特別展

## 「日本書道文化の伝統と継承－かな美への挑戦－」

### ① 展覧会詳細

主催	帝京大学総合博物館・帝京大学書道研究所
会期	平成 28 年 10 月 18 日(火)～平成 28 年 12 月 19 日(月) 53 日間 ※休館日：日曜日、11/3(木)、11/12(土)、12/10(土) ※臨時開館日：10/23(日)、11/23(水)
会場	帝京大学総合博物館企画展示室
入場者数	6,660 名
企画構成	福井淳哉（帝京大学日本文化学科准教授・帝京大学書道研究所所長） 堀越峰之（帝京大学総合博物館学芸員）
アドバイザー	公益財団法人五島美術館常務理事・副館長 名兎耶明

### ② 開催趣旨

本展示は、日本古代から現代に至る書の歴史と、書文化の継承に焦点を当てるもので、帝京大学書道研究所で蓄積された研究成果を、広く学内や学外に発信することを目的とする。特に、帝京大学書道研究所では、日本書道を専門に研究する体制が整っており、これは中国書道研究を主流とする他の書道機関とは異なる本学独自の特色ある内容である。日本の書道文化を理解し、書道技術の継承と指導者としての能力を修得できるよう、研究所では、多くの貴重な書跡資料を活用した教育が実践されている。しなしながら、こうした重要な学術資産は、遺憾ながらあまり知られていないのが現状である。そこで、本展示を通じて本研究所の研究教育活動を発信し、貴重な書跡資料を学内はもとより、広く一般に公開することを目的とするものである。

### ③ 展示構成

#### プロローグ

展示室への前室として、近世の書、近現代の書を展示

#### 帝京書道 85 年の軌跡

帝京大学の原点である帝京商業学校の創立から、帝京大学の創立そして帝京大学書道研究所の設立を経て現在まで、帝京大学における書道教育の歴史を沖永莊兵衛、続木湖山らの作品を通じて紹介。

#### 第 1 章 古筆切の美

日本書道文化の原点たる古筆を中心に展示し、書の魅力とともに、和歌文学や料紙工芸など、書に関連した日本文化の多様性を示した。

#### 第 2 章 近世の書

王朝復古の回帰から再生した和様、そして黄檗僧の来航と幕府の儒学奨励により隆盛した唐様、ここでは近世書道の文化の二大潮流を示した。

#### 第 3 章 近代の書－明治から戦前－

日本が欧化の道を進む中、かな書道は古筆へ範を求めその表現は原点へと回帰する。その動きの中心を担った御歌所の歌人の書を中心に展示し、現代へと続くかな書道の潮流を示した。

#### 第 4 章 戦後のかな書道

日展に第 5 科（書）が設置されたことを受けて書は展覧会芸術としての一面を見せるようになる。昭和のスター書家の作品を中心に展示し、現代かな書道の殿堂を示した。

### ④ 関連事業

#### イ 列品講座

日時 平成 28 年 10 月 22 日(土) 13:00～15:00

会場 ソラティオスクエア地下 1 階 S012 教室

講師 高城弘一（大東文化大学教授）・福井淳哉（文学部日本文化学科准教授）

参加者数 43 名

概要 「古筆の見方」と「近現代かな書の見方」についての解説会

ロ シンポジウム「日本書道文化のさらなる発展を目指して」

日 時 平成 28 年 11 月 26 日 (土) 13:00 ~ 17:00

会 場 帝京大学八王子キャンパスソラティオスクエア地下 2 階小ホール

記念講演 「日本書道文化の伝統と継承」

講演者：名児耶明（公益財団法人五島美術館常務理事・副館長）

記念対談 「日本書道文化のさらなる発展を目指して」

登壇者：名児耶明、土橋靖子（日展会員・大東文化大学特任教授）

席上揮毫（書のデモンストレーション）

演 者：土橋靖子

申 込：279 名、参加：216 名

概 要 美術館で書を扱う第一人者の名児耶明氏と、現代の書家を代表する土橋靖子氏を迎えての日本書道文化のこれまでとこれからについてのシンポジウム。近隣のみならず、北海道や鹿児島からも参加があった。

⑤ 印刷物

イ チラシ 14,000 部

ロ ポスター 750 部

⑥ 図録の出版

書 籍 名 『日本書道文化の伝統と継承—かな美への挑戦—』

企画・編集 帝京大学書道研究所・帝京大学総合博物館

発 行 所 株式会社求龍堂

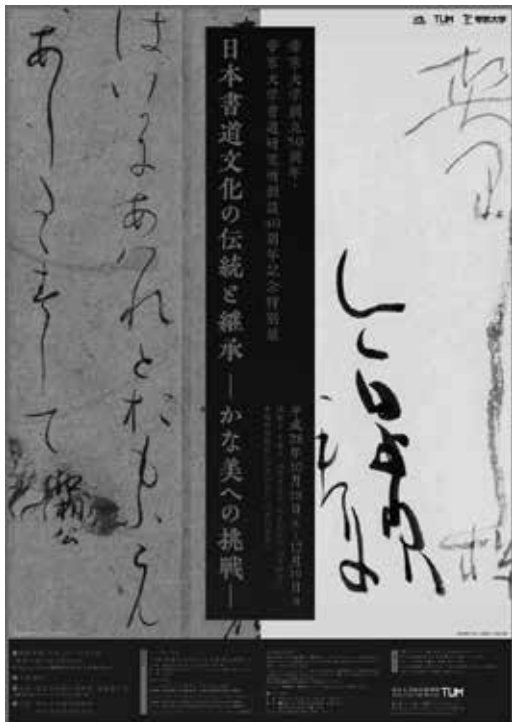
頁 数 208 頁

発行 部数 2,000 部

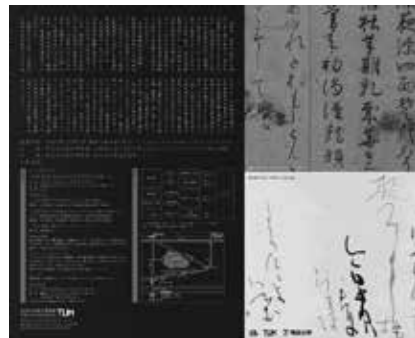
定 価 2,700 円（税込）

原稿執筆者

名児耶明（公益財団法人五島美術館常務理事・副館長）・池田和臣（中央大学文学部国文学専攻教授）・今谷明（帝京大学文学部日本文学学科特任教授）・木村茂光（帝京大学文学部史学科教授）・高城弘一（大東文化大学文学部書道学科教授）・高橋利郎（大東文化大学文学部書道学科准教授）・田中登（関西大学文学部総合人文学科教授）・佐々木孝浩（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授）・永由徳夫（群馬大学教育学部国語教育講座教授）・中村健太郎（帝京大学短期大学人間文化学科助教）・河島由也（帝京大学大学院日本文化専攻博士後期課程）・福井淳哉（帝京大学文学部日本文学学科准教授）・堀越峰之（帝京大学総合博物館学芸員）



ポスター



チラシ (表)



チラシ (裏)



会場入口



プロローグ



第1章 古筆切の美 第2章 近世の書



法輪寺切(右)



古筆手鑑『翰墨城』



第3章 近代の書—明治から戦前—



第4章 戦後のかな書道



シンポジウム

帝京大学総合博物館 開館記念特別展  
「アカデミックトレジャーズ展－帝京大学「知」の集積－」  
出品目録

I 医療の進歩				
1 京都医家 前田松閣				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
1	処剂録	1869年	1	帝京大学医学総合図書館
2	一子相伝 相伝秘録 外科部	1843年	1	帝京大学医学総合図書館
3	産前後口伝書	1777年	1	帝京大学医学総合図書館
4	一子相伝 妙法豆腐菜	1861年	1	帝京大学医学総合図書館
5	宗門御改手形	1838年	1	帝京大学医学総合図書館
6	前田松閣所有地地券	1875年	1	帝京大学医学総合図書館
7	奉公人請状	1873～83年	1	帝京大学医学総合図書館
8	東遊日記	1879年	1	帝京大学医学総合図書館
9	切支丹宗門御改手形之事	1830年	1	帝京大学医学総合図書館
10	灸法秘図	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
11	経験秘訣	1865年	1	帝京大学医学総合図書館
12	壳菜	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
13	処剂手留	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
14	処剂録	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
15	諸書籍の覚	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
16	出納簿	1882年	1	帝京大学医学総合図書館
17	増補本 □瀧氏家系自家伝記増補 全	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
18	結納記録	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
19	兵部省治療方辞令	1869年	1	帝京大学医学総合図書館
20	前田松閣宛本多副元の礼状	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
21	前田松閣宛役職依頼状	1870年	1	帝京大学医学総合図書館
22	前田松閣およびその他家族宛葉書	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
23	追善俳諧之連歌	1875年	1	帝京大学医学総合図書館
24	丹水眼科用書 全	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
25	留春堂腹侯録 全	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
26	屠蘇考	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
27	婦人救急方	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
28	小児一流薬方	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
29	外科必用	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
30	名古屋医方規矩 全	1834年	1	帝京大学医学総合図書館
31	徴秘録	1841年	1	帝京大学医学総合図書館
32	名古屋秘伝訓蒙薬対摘要 全	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
33	丹水先生産科奥術筆記	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
34	服忌令 全	幕末～明治	1	帝京大学医学総合図書館
2 帝京大学薬学部生薬標本コレクション				
35	薬研		1	帝京大学薬学部
36	切断機		1	帝京大学薬学部
37	キハダ		1	帝京大学薬学部
38	陀羅尼飴		1	帝京大学薬学部
39	薬用人参 (ヤクヨウニンジン)	1979年	1	帝京大学薬学部
40	竹節人参 (チクセツニンジン)	1972年	1	帝京大学薬学部
41	竜胆 (リュウタン)		1	帝京大学薬学部

42	熊胆 (ユウタン)	1940 年	1	帝京大学薬学部
43	蟾酥 (センソ)		1	帝京大学薬学部
44	犀角 (サイカク)		1	帝京大学薬学部
45	滑石 (カッセキ)		1	帝京大学薬学部
46	石膏 (セッコウ)		1	帝京大学薬学部
47	竜骨 (リュウコツ)		1	帝京大学薬学部
<b>3 日本における関節鏡の歴史</b>				
48	渡辺式 21 号関節鏡	1959 年	1	帝京大学医学部附属病院
<b>4 帝京大学の内視鏡研究 (個人所蔵)</b>				
49	山川達郎編集『腹腔鏡下外科手術』	1992 年	1	個人蔵
50	山川達郎監修『腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術』	1998 年	1	個人蔵
<b>II 日本の文化</b>				
<b>1 誹風柳多留</b>				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
51	誹風柳多留	1765 ~ 1838 年	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
<b>2 浄瑠璃本</b>				
52	増補 朝顔日記 宿屋の段切大井川	1832 年	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
53	伊達娘恋緋鹿子	1773 年	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
54	祇園祭禮信仰記 四段目 金閣寺の段	1757 年	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
55	安達原 三段目酒切	1763 年	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
56	三味線譜本	近代	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
<b>3 小さな日本人たち</b>				
57	小さな日本人たち	1886 ~ 87 年頃	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
<b>4 帝京アートスペース</b>				
58	富嶽図 (狩野探幽)	1670 ~ 74 年頃	1	帝京大学
59	月前砧 (春木南溟)	江戸 ~ 明治	1	帝京大学
60	残月 (横山大観)	1907 ~ 12 年頃	1	帝京大学
61	楊柳観音 (下村観山)	明治 ~ 昭和	1	帝京大学
62	鈴木翠軒 書	昭和	1	帝京大学書道研究所
63	日比野五鳳 書	1964 年	1	帝京大学書道研究所
64	殿村藍田 書	昭和	1	帝京大学書道研究所
65	西谷卯木 書	1978 年	1	帝京大学書道研究所
66	鳥 (河野義治)	1980 年代	1	やまなし伝統工芸館
67	茶碗「銘 残雪」(河野道一)	1980 年代	1	やまなし伝統工芸館
68	香炉と香合「銘 ざくろ」(高野誠)	1980 年代	1	やまなし伝統工芸館
69	月光浴 (村岡貴美男)	2000 年	1	帝京大学
70	きいろいひと (高島圭史)	2003 年	1	帝京大学
71	Bathtub inside (曾谷朝絵)	2005 年	1	帝京大学
72	D&D Delicate discoveries On the Beach (薄久保香)	2007 年	1	帝京大学
<b>III 大学発人工衛星開発プロジェクト</b>				
(帝京大学理工学部所蔵)				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
73	TeikyoSat-3 エンジニアリングモデル	2012 年	1	帝京大学理工学部



74	TeikyoSat-3 フライトモデル	2013年	1	帝京大学理工学部
75	TeikyoSat-3 ミッションモジュール容器	2013年	1	帝京大学理工学部
76	TeikyoSat-3 ミッションモジュール内部	2013年	1	帝京大学理工学部
77	TeikyoSat-1、2	2008年	2	帝京大学理工学部
78	松本零士サイン色紙	2013年	1	帝京大学理工学部
79	市民からの応援ボード		1	帝京大学理工学部
80	中嶋神社お守り	2014年	1	帝京大学理工学部
81	Teikyo-Sat-3 チームジャケット		1	帝京大学理工学部
82	打ち上げ記念ステッカー		1	帝京大学理工学部
83	H-2 ロケット 1/15 模型		1	帝京大学理工学部
84	フェアリング (H-II Bロケット 1号機)	2009年	1	帝京大学理工学部

帝京大学創立 50 周年企画展示  
「50 年前の帝京大学～ 1960 年代後半、多摩丘陵でのキャンパスライフ～」  
出品目録

エントランス				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
1	帝京大学校舎全景 (写真)	1967年	1	帝京大学
2	学友会役員 (写真)	1969年	1	帝京大学
3	帝京大学正門 (写真)	1969年頃	1	帝京大学
1960 年代の世相				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
4	学生ホール (写真)	1969年頃	1	帝京大学
5	コカ・コーラの瓶 (上っ原遺跡出土)	1960～70年代	1	多摩市教育委員会
6	編集工学研究所構成『情報の歴史』NTT 出版 (パネル)	1996年		編集工学研究所
7	キューバ革命 (1959年) の中心となったチェ・ゲバラとフィデル・カストロ (写真)	1963年	1	AFP PHOTO/HO
8	日米安全保障条約をめぐり、6月15日に起こった全学連と警官隊について話す岸信介首相 (写真)	1960年	1	AFP PHOTO/STF
9	ヴォストーク1号で人類初の有人宇宙飛行を行ったガガーリン (写真)	1961年	1	AFP PHOTO
10	ベルリンの壁 (写真)	1961年	1	AFP PHOTO/GUNTER BRATKE/DPA
11	キューバ危機 (写真)	1962年	1	AFP PHOTO
12	ケネディ大統領暗殺事件 (写真)	1963年	1	AFP PHOTO/CECIL STOUGHTON-WH PHOTOGRAPHS/JFK Presidential
13	キング牧師と黒人解放運動 (写真)	1963年	1	AFP PHOTO
14	東京オリンピック (写真)	1964年	1	AFP PHOTO/STR/JIJI PRESS FILES
15	ヴェトナム戦争の激化 (写真)	1965年	1	AFP PHOTO
16	日本公演のため来日したビートルズ (写真)	1966年	1	AFP PHOTO/PANASIA-FILES
17	文化大革命 (写真)	1966年	1	AFP PHOTO・XINHUA
18	「ブラハの春」が起こったチェコスロバキアに軍事介入するワルシャワ条約機構軍 (写真)	1968年	1	AFP PHOTO
19	パリ5月革命 (写真)	1968年	1	AFP PHOTO
20	東京大学安田講堂事件 (写真)	1969年	1	AFP PHOTO/PANA
21	アポロ11号月面着陸成功 (写真)	1969年	1	AFP PHOTO/NASA
22	銀座の高速道路の夜景 (写真)	1967年頃	1	法政大学史センター
23	国民所得税倍増計画について演説する池田勇人 (写真)	1960年	1	毎日フォトバンク
24	学生運動 (写真)	1960年代	1	明治大学史資料センター
25	百草団地	1967年頃	1	日野市郷土資料館

26	多摩平団地 (写真)	1967 年頃	1	日野市郷土資料館
27	1951 年度公団住宅標準設計 C 型 (図)	1951 年	1	小林悠介 2009 年「地方都市における標準設計 51 C の実務的考察～福岡県に建設された事例を対象として」より転載
28	スーパーマーケットのチラシ (写真)	1963 年	1	サミット株式会社
29	ピーナッツ入り柿の種 (写真)	1966 年	1	亀田製菓株式会社
30	パーモントカレー (写真)	1963 年	1	ハウス食品グループ株式会社
31	日清焼そば (写真)	1963 年	1	日清食品ホールディングス
32	UCC コーヒー ミルク入り (写真)	1969 年	1	UCC ホールディングス株式会社
33	森永インスタントコーヒー (写真)	1960 年	1	森永製菓株式会社
34	のりたま (写真)	1960 年	1	丸美屋食品工業株式会社
35	ポッキー (写真)	1966 年	1	江崎グリコ株式会社
36	1965 年発売当初のかっぱえびせんと工場の様子 (写真)	1965 年頃	1	カルビー株式会社
37	ポッキーのテレビ CM (写真)	1966 年	1	江崎グリコ株式会社
38	森永インスタントコーヒーの新聞広告 (写真)	1960 年	1	森永製菓株式会社
39	のりたま・すきやき広告 (写真)	1964 年	1	丸美屋食品工業株式会社
40	集合住宅のダイニングキッチンの様子 (写真)	1960 年頃	1	UR 都市機構
41	板橋区蓮根団地 (1957 年竣工) に設置された人造とぎ石の流し台 (写真)	1957 年頃	1	UR 都市機構
42	晴海高層アパート (1958 年竣工) に設置されたステンレス製の流し台 (写真)	1958 年	1	UR 都市機構
43	カローラ KE10 型 (写真)	1966 年頃	1	トヨタ博物館
44	トヨタ スポーツ 800 UP15 型 (写真)	1965 年頃	1	トヨタ博物館
45	マツダ コスモスポーツ L10B 型 (写真)	1967 年頃	1	トヨタ博物館
46	トヨタ センチュリー VG20 型 (写真)	1967 年頃	1	トヨタ博物館
47	ホンダ S500 AS280 型 (写真)	1963 年頃	1	トヨタ博物館
48	トヨタ 2000GT MF10 型 (写真)	1965 年頃	1	トヨタ博物館
49	ダットサン フェアレディ SP310 型 (写真)	1962 年頃	1	トヨタ博物館
50	マツダ ファミリア SSA 型 (写真)	1964 年頃	1	トヨタ博物館
51	ニッサン プリンススカイライン (写真)	1960 年代	1	トヨタ博物館
52	ニッサン セドリック 30 型 (写真)	1960 年頃	1	トヨタ博物館
53	いすゞ ベレット 1600GT PR90 型 (写真)	1963 年頃	1	トヨタ博物館
54	プリンス グロリア スーパー 641 型 (写真)	1963 年頃	1	トヨタ博物館
55	ニッサン シルビア CSP311 型 (写真)	1965 年頃	1	トヨタ博物館
56	スバル 1000 (写真)	1967 年頃	1	トヨタ博物館
57	日立ルームクーラー RW-600H (写真)	1962 年	1	株式会社日立製作所
58	松下電器 17 インチカラーテレビ (K17-30) (写真)	1960 年	1	パナソニック株式会社
59	松下電器家具調テレビ嵯峨 (TC-96G) (写真)	1965 年	1	パナソニック株式会社
60	長谷川町子著『サザエさん』(実物)	1946 年～72 年	1	個人蔵
<b>1960 年代の大学生</b>				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
61	日本大学芸術学部 (写真)	1963 年	1	日本大学大学史編纂課
62	機械分析実験 (写真)	1960 年代	1	中央大学大学史資料課
63	中央大学駿河台校舎 3 号館 (大講堂) での授業 (写真)	1960 年代	1	中央大学大学史資料課
64	芝生でくつろぐ女子学生 (写真)	1970 年頃	1	法政大学史委員会
65	図書館 (写真)	1964 年頃	1	明治大学史資料センター
66	ゼミナールの様子 (写真)	1970 年頃	1	法政大学史センター
67	大学生協 (写真)	1967 年頃	1	法政大学史センター
68	芝生でくつろぐ学生 (写真)	1964 年頃	1	明治大学史資料センター

69	『朝日ジャーナル』Vol.11, No.3 朝日新聞社 (実物)	1969年	1	個人蔵
70	『月刊漫画ガロ』No.30 青林堂 (実物)	1967年	1	個人蔵
71	高橋悦子著『二十歳の原点』新潮社 (実物)	1971年	1	個人蔵
72	柴田翔著『されどわれらが日々』文芸春秋社 (実物)	1964年	1	個人蔵
73	ドストエフスキー著『罪と罰』岩波書店 (実物)	1999年	1	個人蔵
74	カフカ著『変身・断食芸人』岩波書店 (実物)	2004年	1	個人蔵
75	羽仁五郎著『都市の理論』勁草書房 (実物)	1968年	1	個人蔵
76	吉本隆明著『共同幻想論』河出書房新社 (実物)	1968年	1	個人蔵
77	『平凡パンチ』5/23号 平凡社出版 (実物)	1966年	1	個人蔵
78	『COM』第二巻第四号 虫プロ商事 (実物)	1969年	1	個人蔵
79	『週刊少年マガジン』講談社 (実物)		1	個人蔵
80	『MEN'S CLUB』Vol.67 婦人画報社 (実物)	1967年	1	個人蔵
81	『蛭雪時代』第39巻第6号 旺文社 (実物)	1969年	1	個人蔵
82	ジャン＝ポール・サルトル著『存在と無』人文書院 (実物)	1956年	1	個人蔵
83	カール・マルクス著『資本論』岩波書店 (実物)	1969年	1	個人蔵
84	学生運動の記録 (映像)		1	写真提供：専修大学大学史資料課・中央大学大学史資料課・日本大学大学史編纂課・法政大学史委員会・明示大学大学史資料センター・AFP
85	下宿 (写真)	1967年頃	1	法政大学史委員会
86	学生寮 (写真)	1960年頃	1	専修大学大学史資料課
87	全日本学生会下宿斡旋立て看板 (写真)	1971年頃	1	明治大学史資料センター
88	アルバイト募集の掲示板 (写真)	1966年	1	中央大学大学史資料課
89	神田、神保町界隈 (写真)	1965年頃	1	明治大学史資料センター
90	神楽坂の映画館 (写真)	1970年頃	1	法政大学史委員会
91	パチンコ店 (写真)	1960年代	1	明治大学史資料センター
92	日活映画の看板 (写真)	1966年頃	1	明治大学史資料センター
93	麻雀 (写真)	1960年代	1	明治大学史資料センター
94	雀荘の看板 (写真)	1970年頃	1	専修大学大学史資料課
95	バー (写真)	1960年頃	1	明治大学史資料センター
96	神田神保町古書店街 (写真)	1970年頃	1	専修大学大学史資料課
97	天ぷら いもや (写真)	1970年	1	専修大学大学史資料課
98	御茶ノ水駅付近のラーメン屋 (写真)	1966年	1	明治大学史資料センター
99	学生食堂 (写真)	1970年頃	1	法政大学史委員会
100	学生服を着る男子学生 (写真)	1962年	1	日本大学大学史編纂課
101	1960年代後半の大学生のファッション (写真)	1969年	1	専修大学大学史資料課
102	学園祭 (写真)	1969年	1	専修大学大学史資料課
103	就職活動 (写真)	1960年代	1	専修大学大学史資料課
104	理髪店 (写真)	1964年	1	明治大学史資料センター
105	六大学野球 (写真)	1965年頃	1	法政大学史委員会
106	日本大学体育祭 (写真)	1967年	1	日本大学大学史編纂課
107	専修大学体育祭 (写真)	1969年頃	1	専修大学大学史資料課
108	ミュージックフェスティバル (写真)	1969年頃	1	専修大学大学史資料課
109	サークル勧誘 (写真)	1967年	1	中央大学大学史資料課
110	吉本隆明講演「芸術と政治」 (写真)	1967年	1	法政大学史委員会
111	喫茶店 (写真)	1966年	1	明治大学史資料センター
112	学習風景 (写真)	1966年	1	明治大学史資料センター

50年前の帝京大学とその周辺				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
113	聖蹟桜ヶ丘駅（写真）	1969年	1	公益財団法人 多摩市文化振興財団
114	1960年頃の八王子大塚区域（写真）	1960年頃	1	帝京大学
115	1966年度の大学新增設地を報ずる新聞（朝日新聞 1965年12月19日）（パネル）	1965年	1	朝日新聞社
116	大学建設予定地を視察する沖永荘一（写真）	1961年頃	1	帝京大学
117	帝京大学周辺航空写真（写真）	1969年	1	公益財団法人 多摩市文化振興財団
118	旧聖蹟桜ヶ丘駅のホーム（写真）	1969年頃	1	公益財団法人 多摩市文化振興財団
119	高架化からまもない聖蹟桜ヶ丘駅航空写真（写真）	1970年頃	1	公益財団法人 多摩市文化振興財団
120	聖蹟桜ヶ丘駅商店街（写真）	1969年頃	1	公益財団法人 多摩市文化振興財団
121	飲食店看板（写真）	1969年頃	1	帝京大学
122	聖蹟桜ヶ丘駅（写真）	1970年頃	1	帝京大学
123	聖蹟桜ヶ丘駅アーケード街（写真）	1970年頃	1	帝京大学
124	昭和41年度帝京大学入学案内（実物）	1966年	1	帝京大学
125	1号館設計図面（実物）	1965年	1	帝京大学
126	2号館設計図面（実物）	1965年	1	帝京大学
127	3号館設計図面（実物）	1968年	1	帝京大学
128	5号館設計図面（実物）	1966年	1	帝京大学
129	図書館設計図面（実物）	1968年	1	帝京大学
130	帝京大学設置認可証（複製）	1966年	1	帝京大学
131	八王子市大塚地区（写真）	1969年頃	1	帝京大学
132	旧野猿街道（写真）	1969年頃	1	帝京大学
133	大塚バス停（写真）	1969年頃	1	帝京大学
134	正門に続く道路（写真）	1969年頃	1	帝京大学
135	帝京大学正門（写真）	1969年頃	1	帝京大学
136	牛舎（写真）	1960年代後半	1	帝京大学
137	2号館前電話ボックス（写真）	1970年頃	1	帝京大学
138	1号館と図書館（写真）	1968年頃	1	帝京大学
139	1号館から2号館を望む（写真）	1970年頃	1	帝京大学
140	図書館（写真）	1968年頃	1	帝京大学
141	学友会各部室・道場（写真）	1968年頃	1	帝京大学
142	工事中の体育館（写真）	1969年頃	1	帝京大学
143	グラウンド（写真）	1968年頃	1	帝京大学
50年前のキャンパスライフ				
番号	資料名	年代	数量	所蔵先
144	ファイヤーストーム（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
145	フォークギターを弾く学生（写真）	1969年頃	1	帝京大学
146	就職活動（写真）	1969年頃	1	帝京大学
147	学生ホール（写真）	1969年頃	1	帝京大学
148	全学集会の様子（写真）	1960年代後半	1	帝京大学
149	学生のファッション（写真）	1969年頃	1	帝京大学
150	フォークギターを弾く学生（写真）	1969年頃	1	帝京大学
151	ボーリング（写真）	1970年頃	1	帝京大学
152	聖蹟桜ヶ丘駅バス乗車風景（写真）	1969年頃	1	帝京大学
153	米軍燃料輸送列車事故に対する抗議デモ行進（写真）	1967年	1	帝京大学
154	帝京大学第1期卒業アルバム（実物）	1970年	1	帝京大学
155	帝京大学襟章（実物）	1968年	1	帝京大学

156	学生便覧（実物）	1968年	1	帝京大学
157	入学許可証（実物）	1968年	1	帝京大学
158	学費納入領収書（実物）	1968年	1	帝京大学
159	剣道部集合写真（写真）	1969年頃	1	帝京大学
160	現在の中里祥雄さん（写真）	2016年	1	帝京大学
161	学生時代の中里祥雄さん（写真）	1972年	1	帝京大学
162	第3回 帝京祭 司法研究所主催「模擬裁判（テーマ殺人罪）」（写真）	1970年	1	帝京大学
163	現在の模擬法廷に座る水落寛二さん（写真）	2016年	1	帝京大学
164	学生時代の水落寛二さん（写真）	1972年	1	帝京大学
165	学内スナップ写真1（実物）	1968～72年頃	1	帝京大学
166	学内スナップ写真2（実物）	1968～72年頃	1	帝京大学
167	昭和43年度帝京大学受験票（実物）	1968年	1	帝京大学
168	剣道部襟章（実物）	1968年	1	帝京大学
169	司法研究所襟章（実物）	1968年	1	帝京大学
170	経済学部階段教室での授業（写真）	1970年頃	1	帝京大学
171	軽井沢スケートセンターでの体育実技集中講座（写真）	1969年頃	1	帝京大学
172	経済学部ゼミナール（写真）	1969年頃	1	帝京大学
173	文学部国文学科の授業（写真）	1969年頃	1	帝京大学
174	法学部ゼミナール（写真）	1967年頃	1	帝京大学
175	体育実技集中講義 軽井沢スケートセンター（写真）	1969年頃	1	帝京大学
176	文学部英文学科（写真）	1969年頃	1	帝京大学
177	昭和45年度法学部時間割（実物）	1970年	1	帝京大学
178	教育心理学 昭和45年 夏季集中講義録（実物）	1970年	1	帝京大学
179	浅原六朗「てるてる坊主」色紙（実物）	1970年	1	帝京大学
180	諸橋襄（写真）	1967年頃	1	帝京大学
181	川口常孝（写真）	1966年頃	1	帝京大学
182	浅原六朗（写真）	1966年頃	1	帝京大学
183	古谷専三（写真）	1966年頃	1	帝京大学
184	学友会役員（写真）	1969年	1	帝京大学
185	ラグビー部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
186	少林寺拳法部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
187	空手部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
188	柔道部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
189	剣道部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
190	野球部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
191	サッカー部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
192	卓球部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
193	応援団（写真）	1969年頃	1	帝京大学
194	経済学研究会（写真）	1969年頃	1	帝京大学
195	ESS部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
196	放送研究会（写真）	1969年頃	1	帝京大学
197	軽音楽部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
198	写真部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
199	落語研究会（写真）	1969年頃	1	帝京大学
200	ワンダーフォーゲル部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
201	釣同好会（写真）	1969年頃	1	帝京大学
202	ボクシング部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
203	自動車部（写真）	1969年頃	1	帝京大学

204	合同研究発表会開会式（写真）	1967年	1	帝京大学
205	ヨット部（写真）	1969年頃	1	帝京大学
206	フォークダンスフェスティバル（写真）	1968年	1	帝京大学
207	じゃんけん列車（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
208	フォークダンスフェスティバル（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
209	写真部展示（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
210	古本屋（第2回帝京祭）（写真）	1969年	1	帝京大学
211	経済学研究会「金と為替」（第2回帝京祭）（写真）	1969年	1	帝京大学
212	E.S.S.部 アポロ11号関係展示（第2回帝京祭）（写真）	1969年	1	帝京大学
213	運動会（リレー・第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
214	運動会（入場行進・第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
215	運動会（障害物競走・第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
216	演武会（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
217	自動車ラリー（第3回帝京祭）（写真）	1970年	1	帝京大学
218	自動車ラリー（第3回帝京祭）（写真）	1970年	1	帝京大学
219	自動車ラリー（第2回帝京祭）（写真）	1969年	1	帝京大学
220	ファイヤーストーム（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
221	ファイヤーストーム（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
222	模擬裁判（第2回帝京祭）（写真）	1969年	1	帝京大学
223	アーチェリー体験（第1回帝京祭）（写真）	1968年	1	帝京大学
224	のど自慢大会（第2回帝京祭）（写真）	1969年	1	帝京大学
225	やきとり屋（第2回帝京祭）（写真）	1969年	1	帝京大学
226	学友会誌『開闢1号』（実物）	1969年	1	帝京大学
227	空手部襟章（実物）	1968年頃	1	帝京大学
228	第2回帝京祭パンフレット（実物）	1969年	1	帝京大学
229	帝京大学第1回卒業式（写真）	1970年	1	帝京大学

帝京大学創立50周年記念特別展示  
「世界にはばたく！伝統芸能芝居－八王子車人形の世界」  
出品目録

I 八王子車人形の成り立ち				
番号	作品名	年代	数量	所蔵先
1	糸巻き・杼（ひ）	年代不詳（昭和期か）	1	瀬沼 亨
2	遊芸御鑑札願	明治11年（1878）9月	1	久保 茂夫
3	人形衣装（自由の衣装）	明治中期	1	西川古柳座
4	人形衣装（打ち掛け）	明治中期	1	西川古柳座
5	人形衣装（まないた帯）	明治中期	1	西川古柳座
6	人形衣装（自由の衣装のレプリカ）	現代	1	西川古柳座
7	人形衣装	明治中期	1	西川古柳座
8	人形衣装	明治中期	1	西川古柳座
9	演出ノート「義太夫日高川」	昭和48年（1973）12月	1	西川古柳座
10	技芸者之証（警視庁）	昭和15年（1930）6月24日	1	西川古柳座
11	浄瑠璃本『東海道中膝栗毛』赤坂並木の段	昭和中期	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
12	浄瑠璃本『東海道中膝栗毛』赤坂並木の段	昭和中期	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
13	義太夫三味線	年代不詳（昭和前期か）	1	細田 明宏
14	見台	年代不詳（昭和前期か）	1	細田 明宏

15	浄瑠璃床本『花雲佐倉曙』下総村の段	明治12年(1879)	1	帝京大学メディアライブラリーセンター
16	ノボリ	現代	1	西川古柳座
17	ノボリ	現代	1	西川古柳座
18	ノボリ	現代	1	西川古柳座
19	ノボリ	現代	1	西川古柳座
20	西川古柳座ちょうちん	現代	1	西川古柳座
21	西川古柳座ちょうちん	現代	1	西川古柳座
22	背景幕(道成寺)	現代	1	西川古柳座
23	車やちょうちん	現代	1	西川古柳座
24	車やちょうちん(小)	現代	1	西川古柳座
25	つつみ	現代	1	西川古柳座
26	あんどん	現代	1	西川古柳座

## II 車人形のしくみ

番号	作品名	年代	数量	所蔵先
27	箱車(初期)	明治～大正期	1	西川古柳座
28	箱車	昭和初期	1	西川古柳座
29	箱車	現代	1	西川古柳座
30	手(右手)	年代不詳	1	西川古柳座
31	手(左手)	年代不詳	1	西川古柳座
32	足	年代不詳	1	西川古柳座
33	胴	現代	1	西川古柳座
34	胴	現代	1	西川古柳座
35	カタガネ	現代	1	西川古柳座
36	車人形	現代	1	菱山 里美氏
37	車人形(体験用)	現代	1	西川古柳座
38	カシラ「娘」	年代不詳(明治中期以前か)	1	西川古柳座
39	カシラ「婆(ばば)」	年代不詳(明治中期以前か)	1	西川古柳座
40	カシラ「検非違使(けんびし)」	年代不詳(明治中期以前か)	1	西川古柳座
41	カシラ「鬼若(おにわか)」	年代不詳(明治中期以前か)	1	西川古柳座

## III 西川古柳座の活動～新作と海外公演～

番号	作品名	年代	数量	所蔵先
42	車人形「幽霊」	現代	1	西川古柳座
43	舌出しちょうちん	現代	1	西川古柳座
44	唐傘お化け	現代	1	西川古柳座
45	新車人形	現代	1	西川古柳座
46	カシラ「お岩さん」	年代不詳(明治中期以前か)	1	西川古柳座
47	カシラ「一つ目小僧」	現代	1	西川古柳座
48	カシラ「梨割り」	年代不詳(明治中期以前か)	1	西川古柳座
49	カシラ「烏天狗」	年代不詳(明治中期以前か)	1	西川古柳座
50	車人形「熊谷次郎直実」	現代(カシラは年代不詳:明治中期以前か)	1	西川古柳座
51	車人形「平敦盛」	現代(カシラは年代不詳:明治中期以前か)	1	西川古柳座
52	車人形「さだめ」	現代(カシラは年代不詳:明治中期以前か)	1	西川古柳座
53	車人形「花魁」	現代(カシラは年代不詳:明治中期以前か)	1	西川古柳座
54	車人形「鷲の精」	現代(カシラは年代不詳:明治中期以前か)	1	西川古柳座
55	車人形「中の太夫」	現代(カシラは年代不詳:明治中期以前か)	1	西川古柳座

帝京大学創立 50 周年記念・帝京大学書道研究創設 40 周年記念特別展  
「日本書道文化の伝統と継承—かな美への挑戦—」  
出品目録

プロローグ

No.	名称	筆者	時代	形態	員数	材質技法	法量	所蔵
1	張説詩	北島雪山筆	江戸時代 / 17 世紀	掛幅装	2 幅	紙本墨書	132.0 × 63.0	帝京大学書道研究所保管
2	松陰	三輪田米山筆	江戸時代 / 19 世紀	掛幅装	1 幅	紙本墨書	127.5 × 55.0	帝京大学書道研究所保管
3	七言絶句	市河米庵筆	江戸時代 / 19 世紀	掛幅装	1 幅	紙本墨書	136.0 × 57.0	帝京大学書道研究所保管
4	刘方平詩	巻菱湖筆	江戸時代 / 19 世紀	掛幅装	1 幅	紙本墨書	107.0 × 28.5	帝京大学書道研究所保管
5	自詠和歌書	吉川霊華筆	大正・昭和	掛幅装	1 幅	紙本墨書	24.0 × 16.5	帝京大学書道研究所保管
6	手習切	吉川霊華筆	大正・昭和	掛幅装	1 幅	紙本墨書	23.0 × 28.5	帝京大学書道研究所保管
7	詠草	高崎正風筆	明治・大正	卷子装	1 巻	紙本墨書	13.3 × 281.0	帝京大学書道研究所保管
8	「こがらしは」	高崎正風筆	明治・大正	短冊	1 葉	彩箋墨書	36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
9	「すみだがは」	加藤義清筆	明治・大正	短冊	1 葉	彩箋墨書	36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
10	短冊二種	山本行範筆	大正・昭和	短冊	2 葉	彩箋墨書	各 36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
11	手ならひ帖	桑田笹舟筆	昭和	折帖	1 帖	彩箋墨書	各 24.5 × 8.0	帝京大学書道研究所保管
12	折帖	山本御舟筆	昭和	折帖	4 帖	紙本墨書	各 24.5 × 8.0	帝京大学書道研究所保管
13	古今和歌集抄	宮本竹逯筆	昭和	折帖	5 帖	彩箋墨書	各 24.5 × 18.5	帝京大学書道研究所保管
14	「うの花の」	安東聖空筆	昭和	額装	1 点	彩箋墨書	各 12.0 × 12.0	帝京大学書道研究所保管
15	「このねぬる」	安東聖空筆	昭和	額装	1 点	紙本墨書	127.0 × 32.5	帝京大学書道研究所保管
16	一年を	山本御舟筆	昭和	額装	1 点	紙本墨書	127.0 × 32.5	帝京大学書道研究所保管
17	「枯枝に」	宮本竹逯筆	昭和	額装	1 点	紙本墨書	30.0 × 38.0	帝京大学書道研究所保管
18	「劫去より」	桑田笹舟筆	昭和	額装	1 点	彩箋墨書	23.0 × 35.0	帝京大学書道研究所保管
19	春のうた	大石隆子筆	昭和 54 年 (1979)	額装	1 点	彩箋墨書	35.0 × 46.5	帝京大学書道研究所保管
20	色紙帖	桑田笹舟筆	昭和 40 年 (1965)	折帖	4 帖	彩箋墨書	各 17.0 × 14.5	帝京大学書道研究所保管
21	春	深山龍洞筆	昭和 53 年頃 (1978)	折帖	1 帖	彩箋墨書	各 36.5 × 24.5	帝京大学書道研究所保管

帝京書道 85 年の歴史

No.	名称	筆者	時代	形態	員数	材質技法	法量	所蔵
22	一生懸命	冲永荘兵衛筆	昭和	額装	1 点	紙本墨書	34.5 × 132.0	帝京大学
23	必勝不敗	冲永荘兵衛筆	昭和	額装	1 点	紙本墨書	34.5 × 132.0	帝京大学
24	宮地幸一歌	續木湖山筆	昭和	掛幅装	1 点	紙本墨書	135.0 × 33.0	帝京大学
25	春日和男歌	續木湖山筆	昭和	掛幅装	1 点	紙本墨書	135.0 × 33.0	帝京大学
26	川口常孝歌	續木湖山筆	昭和	掛幅装	1 点	紙本墨書	140.0 × 31.0	帝京大学
27	葛洪 抱朴子	續木湖山筆	昭和	額装	1 点	紙本墨書	各 133.0 × 22	帝京大学

第 1 章 古筆切の美

No.	名称	筆者	時代	形態	員数	材質技法	法量	所蔵
28	金銀箔裝飾観普賢 経断簡	未詳	平安時代 / 12 世紀 前半	未装	1 葉	彩箋墨書	27.5 × 11.4	個人蔵
29	太秦切	伝聖徳太子筆	平安時代 / 12 世紀	未装	1 葉	紺紙金字	30.1 × 10.2	個人蔵
30	卷子本古今集切	伝源俊頼筆 (推定 / 藤原定実 筆)	平安時代 / 12 世紀 後半	未装	1 葉	彩箋墨書	22.2 × 10.6	個人蔵
31	今城切	伝飛鳥井雅経筆 (推定 / 藤原教長 筆)	鎌倉時代 / 13 世紀	未装	1 葉	紙本墨書	24.4 × 15.4	個人蔵
32	紙拵切	伝藤原佐理筆	平安時代 / 11 世紀 後半 ~ 12 世紀前 半	未装	1 葉	紙本墨書	21.4 × 14.6	個人蔵
33	古筆手鑑 はまち どり			折帖	1 帖		37.7 × 36.7	個人蔵



以下は古筆手鑑「はまちどり」に所収								
	賢愚経断簡	伝聖武天皇筆	奈良時代 / 8 世紀		1 葉	紙本墨書	26.8 × 13.0	個人蔵
	唐紙拾遺抄切	伝源俊頼筆	平安時代 / 12 世紀 前半		1 葉	彩箋墨書	21.2 × 12.9	個人蔵
	装飾法華経断簡	伝小野道風筆	平安時代 / 11 世紀		1 葉	彩箋墨書	24.8 × 3.8	個人蔵
	源氏物語絵巻詞書切	伝津守国冬筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	紙本墨書	31.5 × 15.9	個人蔵
	醍醐切	伝二条家俊筆	南北朝時代 / 正慶 2 年 (1333)		1 葉	紙本墨書	22.6 × 30.0	個人蔵
	重之女集断簡	伝源実朝筆 (藤原 資経筆)	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	彩箋墨書	21.5 × 14.4	個人蔵
34	古筆手鑑 まさご の鶴			折帖	1 帖		38.3 × 23.7	個人蔵
以下は古筆手鑑「まさごの鶴」に所収								
	狭衣物語断簡	伝二条為明筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	彩箋墨書	15.7 × 15.4	個人蔵
	柏木切類聚歌合断 簡	伝藤原忠家筆	平安時代 / 12 世紀 半ば		1 葉	紙本墨書	26.8 × 13.8	個人蔵
35	古筆手鑑			折帖	1 帖		43.0 × 31.0	個人蔵
以下は古筆手鑑「古筆手鏡」に所収								
	装飾法華経断簡	伝小野道風筆	平安時代 / 11 世紀		1 葉	彩箋墨書	25.5 × 9.4	個人蔵
	広沢切	伝後伏見天皇筆 (伏見天皇筆)	鎌倉時代 / 13 世紀 後半		1 葉	紙本墨書	27.8 × 5.0	個人蔵
					1 葉	紙本墨書	29.6 × 12.8	個人蔵
	法輪寺切	伝藤原行成筆	平安時代 / 11 世紀 半ば		1 葉	彩箋墨書	26.0 × 14.2	個人蔵
36	古筆手鑑 時代不 同和歌抄			折帖	1 帖		39.0 × 18.0	個人蔵
以下は古筆手鑑「時代不同和歌抄」に所収								
	公実集切	伝藤原公任筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	紙本墨書	19.9 × 14.0	個人蔵
37	古筆手鑑「翰墨 城」			折帖	1 帖		33.7 × 34.7	個人蔵
以下は古筆手鑑「翰墨城」に所収								
	賢愚経断簡	伝聖武天皇筆	奈良時代 / 8 世紀		1 葉	紙本墨書	25.3 × 12.8	個人蔵
	鳥下絵観普賢経断 簡	伝光明皇后筆	平安時代 / 11 世紀		1 葉	紙本墨書	23.0 × 3.6	個人蔵
	飯室切	伝嵯峨天皇筆	奈良時代 / 8 世紀		1 葉	紙本墨書	26.1 × 5.7	個人蔵
	宸記切	伝後鳥羽天皇	鎌倉時代 / 13 世紀 後半		1 葉	紙本墨書	24.9 × 10.5	個人蔵
	清水切	伝後鳥羽天皇筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	彩箋墨書	27.5 × 7.5	個人蔵
	筑後切	伏見天皇筆	鎌倉時代 / 永仁 2 年 (1294)		1 葉	彩箋墨書	27.6 × 7.2	個人蔵
	広沢切	伝後伏見天皇筆 (伏見天皇筆)	鎌倉時代 / 13 世紀 後半		1 葉	紙本墨書	27.8 × 5.0	個人蔵
	竹屋切	伝後円融天皇筆	室町時代 / 15 世紀		1 葉	彩箋墨書	26.5 × 13.5	個人蔵
	金沢文庫切	伝尊円親王筆	南北朝時代 / 14 世 紀		1 葉	紙本墨書	29.9 × 6.2	個人蔵
	内侍切	伝藤原良経筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	紙本墨書	22.4 × 16.2	個人蔵
	笠置切	万里小路宣房筆	南北朝時代 / 14 世 紀		1 葉	紙本墨書	26.9 × 1.8	個人蔵
	日野切	藤原俊成筆	鎌倉時代 / 12 世紀 後半		1 葉	紙本墨書	22.0 × 7.4	個人蔵
	北野切	伝藤原為家筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	紙本墨書	22.4 × 16.2	個人蔵
	五条切	伝二条為世筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	紙本墨書	25.2 × 6.9	個人蔵
	太秦切	伝聖徳太子筆	平安時代 / 12 世紀		1 葉	紺紙金字	26.5 × 3.8	個人蔵

	紫紙金字光明最勝王經断簡	伝菅原道真筆	奈良時代 / 8 世紀		1 葉	紫紙墨書	25.6 × 5.7	個人蔵
	香紙切	伝藤原佐理筆	平安時代 / 11 世紀後半		1 葉	紙本墨書	20.6 × 12.0	個人蔵
		伝小大君筆	平安時代 / 11 世紀後半		1 葉	紙本墨書	20.7 × 5.4	個人蔵
	白氏文集切	伝藤原行成筆	平安時代 / 11 世紀後半		1 葉	紙本墨書	27.1 × 4.2	個人蔵
	荒木切	伝藤原行成筆	平安時代 / 11 世紀後半		1 葉	紙本墨書	20.5 × 5.7	個人蔵
	詩書切	伝藤原公任筆 (推定 / 藤原定信筆)	平安時代 / 12 世紀前半		1 葉	彩箋墨書	23.8 × 9.2	個人蔵
	唐紙拾遺抄切	伝藤原公任筆	平安時代 / 12 世紀前半		1 葉	彩箋墨書	16.4 × 11.7	個人蔵
	唐紙拾遺抄切	伝源俊頼筆	平安時代 / 12 世紀前半		1 葉	彩箋墨書	20.5 × 4.5	個人蔵
	白河切	伝西行筆	平安時代 / 12 世紀後半		1 葉	紙本墨書	17.2 × 14.7	個人蔵
	右衛門切	伝寂蓮筆	鎌倉時代 / 13 世紀		1 葉	紙本墨書	20.5 × 14.2	個人蔵
	七社切	伝世尊寺行尹筆	南北朝時代 / 14 世紀		1 葉	彩箋墨書	28.9 × 6.6	個人蔵
	安倍小水磨願經断簡	伝安倍小水磨筆	平安時代 / 貞観 13 年 (871)		1 葉	紙本墨書	25.5 × 19.4	個人蔵
	雁金切	伝慶運筆	鎌倉時代 / 13 世紀前半		1 葉	彩箋墨書	24.3 × 9.2	個人蔵
	香紙切	伝藤原佐理筆	平安時代 / 11 世紀後半		1 葉	紙本墨書	20.6 × 12.0	個人蔵
		伝小大君筆	平安時代 / 11 世紀後半		1 葉	紙本墨書	20.7 × 5.4	個人蔵
	角倉切	伝阿仏尼筆	鎌倉時代 / 13 世紀半ば		1 葉	紙本墨書	22.5 × 13.6	個人蔵
38	年魚市切	伝藤原為家筆	鎌倉時代 / 13 世紀	掛幅装	1 幅	彩箋墨書	8.5 × 9.5	個人蔵
39	東大寺切 (三宝絵詞断簡)	伝源俊頼筆	平安時代 / 保安元年 (1120)	掛幅装	1 幅	彩箋墨書	14.5 × 23.0	個人蔵
40	唐紙拾遺抄切	伝藤原公任筆	平安時代 / 12 世紀前半	掛幅装	1 幅	彩箋墨書	33.0 × 46.0	個人蔵
41	石山切貫之集下断簡	伝藤原公任筆 (推定 / 藤原定信筆)	平安時代 / 12 世紀前半	掛幅装	1 幅	彩箋墨書	19.0 × 15.8	個人蔵
42	本能寺切	伝藤原定家筆	鎌倉時代 / 13 世紀	掛幅装	1 幅	紙本墨書	28.0 × 40.0	個人蔵
<b>第2章 近世の書</b>								
No	名称	筆者	時代	形態	員数	材質技法	法量	所蔵
43	百人一首切	本阿弥光悦筆	江戸時代 / 17 世紀	掛幅装	1 幅	彩箋墨書	24.6 × 17.5	個人蔵
44	伊勢物語	伝荒木素白筆	江戸時代 / 17 世紀	卷子装	1 卷	彩箋墨書	29.4 × 509.0	個人蔵
45	予楽院模升色紙	近衛家熙筆	江戸時代 / 17 世紀	掛幅装	1 幅	紙本墨書	33.2 × 48.1	個人蔵
46	五言絶句	貫名菘翁筆	江戸時代 / 19 世紀	掛幅装	1 幅	紙本墨書	23.0 × 48.0	帝京大学書道研究所保管
47	子規図	冷泉為恭筆	江戸時代 / 19 世紀	掛幅装	1 幅	紙本墨書	86.0 × 29.0	帝京大学書道研究所保管
<b>第3章 近代の書—明治から戦前—</b>								
No	名称	筆者	時代	形態	員数	材質技法	法量	所蔵
48	「和歌 蘭亭序」	小野鷺堂筆	明治・大正	掛幅装	1 幅	紙本墨書	128.0 × 33.5	帝京大学書道研究所保管
49	四季のうた	大口周魚筆	大正 7 年 (1918) 1 月 24 日	掛幅装	4 幅	紙本墨書	130.0 × 29.5	帝京大学書道研究所保管
50	「むらくもの」	阪正臣筆	明治・大正	額装	1 点	彩箋墨書	20.0 × 17.5	帝京大学書道研究所保管
51	「みづきよき」	岡山高蔭筆	大正・昭和	額装	1 点	彩箋墨書	21.5 × 17.5	帝京大学書道研究所保管
52	「みそなはず」	出雲路敬通筆	大正 8 年 (1919)	額装	1 点	彩箋墨書	21.5 × 18.0	帝京大学書道研究所保管

53	短冊二種	山本行範筆	大正・昭和	短冊	2葉	彩箋墨書	各 36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
54	枕草子	尾上柴舟筆	大正・昭和	卷子装	1巻	彩箋墨書	25.9 × 26.3	個人蔵
55	「敷砂の」	吉澤義則筆	大正・昭和	掛幅装	1幅	彩箋墨書	27.5 × 41.5	帝京大学書道研究所保管
56	「ふじのねも」	藤岡保子筆	大正・昭和	掛幅装	1幅	彩箋墨書	各 23.0 × 21.0	帝京大学書道研究所保管
<b>第4章 戦後のかな書道</b>								
No	名称	筆者	時代	形態	員数	材質技法	法量	所蔵
57	月雪花集（断簡）	内田鶴雲筆	昭和 24 年（1949）	掛幅装	1幅	彩箋墨書	21.5 × 35.0	帝京大学書道研究所保管
58	短冊四種	日比野五鳳筆	昭和	未装	1葉	彩箋墨書	36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
59	短冊四種	日比野五鳳筆	昭和	未装	1葉	彩箋墨書	36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
60	短冊四種	日比野五鳳筆	昭和	未装	1葉	彩箋墨書	36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
61	短冊四種	日比野五鳳筆	昭和	未装	1葉	彩箋墨書	36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
62	はつ雁の歌	中野越南筆	昭和	掛幅装	1幅	彩箋墨書	24.0 × 185	帝京大学書道研究所保管
63	舒明天皇香具山に登り給ひし時の御製	中野越南筆	昭和	掛幅装	1幅	紙本墨書	35.5 × 62.5	帝京大学書道研究所保管
64	「あさみどり」	中野越南筆	昭和	額装	1点	彩箋墨書	25.0 × 36.0	帝京大学書道研究所保管
65	焚くほどは	内田鶴雲筆	昭和 33 年（1958）	掛幅装	1幅	紙本墨書	165.5 × 21.5	帝京大学書道研究所保管
66	「梅が枝に」	田中塊堂筆	昭和	掛幅装	1幅	紙本墨書	134.5 × 33.0	帝京大学書道研究所保管
67	「底しれぬ」	谷辺橘南筆	昭和	額装	1点	彩箋墨書	36.0 × 6.0	帝京大学書道研究所保管
68	幽香	谷辺橘南筆	昭和	掛幅装	1幅	紙本墨書	40.0 × 35.0	帝京大学書道研究所保管
69	「いにしへの」	西谷卯木筆	昭和 46 年頃（1971）	額装	1点	彩箋墨書	33.0 × 126.0	帝京大学書道研究所保管
70	「おほらかに」	西谷卯木筆	昭和	額装	1点	紙本墨書	37.0 × 48.0	帝京大学書道研究所保管
71	「山かぜは」	西谷卯木筆	昭和 53 年（1978） 4月	掛幅装	1幅	彩箋墨書	21.0 × 18.0	帝京大学書道研究所保管
72	「としたりて」	西谷卯木筆	昭和 49 年（1974）	掛幅装	1幅	彩箋墨書	各 11.5 × 9.5	帝京大学書道研究所保管
73	「なかなか」	鈴木翠軒筆	昭和	額装	1点	彩箋墨書	22.0 × 18.0	帝京大学書道研究所保管
74	「さざなみの」	鈴木翠軒筆	昭和	額装	1点	彩箋墨書	各 12.0 × 12.0	帝京大学書道研究所保管
75	「なつそびく」	鈴木翠軒筆	昭和	額装	1点	彩箋墨書	22.0 × 18.0	帝京大学書道研究所保管
76	「あまさかる」Ⅰ	鈴木翠軒筆	昭和	額装	1点	彩箋墨書	13.0 × 12.0	帝京大学書道研究所保管
77	「あまさかる」Ⅱ	鈴木翠軒筆	昭和	額装	1点	紙本墨書	139.0 × 34.0	帝京大学書道研究所保管
78	「子供らや」	日比野五鳳筆	昭和	額装	1点	紙本墨書	20.0 × 17.5	帝京大学書道研究所保管
79	「山吹は」	日比野五鳳筆	昭和	額装	1点	紙本墨書	18.0 × 16.5	帝京大学書道研究所保管
80	「秋かぜの」	日比野五鳳筆	昭和 39 年（1964）	額装	1点	紙本墨書	18.0 × 16.5	帝京大学書道研究所保管
81	「みやま木の」	森田竹華筆	昭和	掛幅装	1幅	紙本墨書	131.0 × 31.0	帝京大学書道研究所保管
82	「千年まで」	森田竹華筆	昭和	額装	1点	紙本墨書	33.0 × 23.5	帝京大学書道研究所保管
83	「ゆく春や」	森田竹華筆	昭和	額装	1点	紙本墨書	45.0 × 33.0	帝京大学書道研究所保管
84	いしもきも	平田華邑筆	昭和 54 年（1979）	掛幅装	1幅	彩箋墨書	27.0 × 26.0	帝京大学書道研究所保管
85	あまの原	筒井敬玉筆	昭和 58 年（1983）	掛幅装	1幅	彩箋墨書	14.5 × 12.5	帝京大学書道研究所保管
86	古歌三題	筒井敬玉筆	昭和 48 年（1973） 8月	掛幅装	1幅	彩箋墨書	35.0 × 47.0	帝京大学書道研究所保管

## (2) その他展覧会

### ① 【プラスティール】 More to Love Teikyo

主催：帝京大学総合博物館・フリーペーパー「+T」編集部  
会期：平成27年9月14日(月)～28年3月26日(土) 107日間  
入場者数：18,214名  
概要：フリーペーパー「+T」編集部による展示



【プラスティール】 More to Love Teikyo

### ② ミュージアムプラザ展示

主催：帝京大学総合博物館  
協力：帝京大学学友会  
会期：平成27年12月1日(火)～28年1月15日(金) 28日間  
入場者数：2,480名  
概要：八王子キャンパスの文化系学生団体の活動を展示



帝京大学小学校 第2回陶芸展

### ③ 帝京大学小学校「平成27年度 第2回陶芸展」

主催：帝京大学総合博物館・帝京大学小学校  
会期：平成27年10月20日(火)～11月28日(土) 33日間  
入場者数：4,937名  
概要：帝京大学小学校4、5、6年生による陶芸作品の展示

### ④ ラーニングエイジ スライド展

主催：「多世代で共に創る学習プログラム開発の検討」研究会  
(代表 帝京大学高等教育開発センター 森玲奈講師)  
会期：平成28年1月5日(火)～1月15日(金) 9日間  
入場者数：807名  
概要：上記研究会の百草団地での活動の様子をスライドで紹介



ラーニングエイジ スライド展

### ⑤ 平成27年度帝京大学日本文化学科書道ゼミ・帝京大学書道部合同卒業制作展

主催：帝京大学文学部日本文化学科書道ゼミ・帝京大学書道部  
会期：平成28年3月24日(木)～3月26日(土) 3日間  
入場者数：147名  
概要：日本文化学科と書道部による合同展示会



風土見聞録

### ⑥ 平成27年度帝京大学文学部史学科「地理学野外実習Ⅰ・Ⅱ」調査報告「風土見聞録」－愛知県豊田市稲武地区編－

主催：帝京大学文学部史学科地理学ゼミ・帝京大学総合博物館・古橋懐古館・いなぶ観光協会  
会期：平成28年3月18日(金)～5月20日(金) 27日間  
入場者数：4,567名  
概要：愛知県豊田市稲武地区の調査報告展示

### ⑦ T-Collection

主催：帝京大学総合博物館  
協力：帝京大学学友会  
会期：平成28年4月7日(木)～7月27日(水) 87日間  
入場者数：10,672名  
概要：八王子キャンパスの文化系サークル団体の活動を展示



T-Collection

### ⑧ シルクロードを掘る

#### ー世界遺産アク・ベシム遺跡の調査 2016ー

主催：帝京大学総合博物館・帝京大学シルクロード学術調査団

会期：平成 28 年 7 月 1 日（金）～7 月 27 日（水） 24 日間

入場者数：3,172 名

概要：帝京大学シルクロード学術調査団が行ったキルギス共和国アク・ベシム遺跡の発掘成果の展示



シルクロードを掘る  
ー世界遺産アク・ベシム遺跡の調査 2016ー

### ⑨ 帝京大学所蔵コレクション展

主催：帝京大学総合博物館

会期：平成 28 年 8 月 26 日（金）～10 月 6 日（木） 30 日間

入場者数：2,937 名

概要：帝京大学が所蔵する絵画作品を展示



帝京大学所蔵コレクション展

### ⑩ シルクロードを歩く

#### ー世界遺産アク・ベシム遺跡の調査 2016ー

主催：帝京大学総合博物館・帝京大学シルクロード学術調査団

会期：平成 28 年 11 月 17 日（木）～12 月 20 日（火） 28 日間

入場者数：3,446 名

概要：帝京大学シルクロード学術調査団が実施したキルギス共和国アク・ベシム遺跡の第 2 次調査の成果を展示

### ⑪ 平成 28 年度 第 3 回帝小陶芸展

主催：帝京大学総合博物館・帝京大学小学校

会期：平成 29 年 2 月 14 日（火）～3 月 1 日（水） 11 日間

入場者数：623 名

概要：帝京大学小学校の図工科の授業内で制作した、全学年の陶芸作品 243 点を発表する展覧会



日本文化学科書道ゼミ・帝京大学書道部  
合同卒業制作展

### ⑫ 平成 28 年度帝京大学日本文化学科書道ゼミ・帝京大学書道部合同卒業制作展

主催：帝京大学文学部日本文化学科書道ゼミ・帝京大学書道部

会期：平成 29 年 3 月 9 日（木）～3 月 10 日（金） 2 日間

入場者数：84 名

概要：平成 29 年 3 月卒業の日本文化学科書道ゼミ学生と帝京大学書道部学生による卒業制作展

## (3) 常設展

### ① 帝京大学のあゆみ

イ 帝京大学ジョイントプログラムセンター

期間：平成 27 年 9 月 14 日（月）～平成 28 年 11 月 11 日（金）

概要：産学連携プロジェクトの研究・推進を行うセンターの活動紹介

ロ 理工学部の最新研究

期間：平成 27 年 9 月 14 日（月）～平成 28 年 11 月 11 日（金）

概要：理工学部の最新研究を厳選して展示



帝京大学ジョイントプログラムセンター展示

## 2 教育・情報公開事業

### (1) 授業連携

#### ① 博物館実習生の受入れ

日程 平成 28 年 8 月 22 日、23 日、24 日、25 日、9 月 2 日、7 日、9 日 延べ 7 日間

参加者数 帝京大学文学部史学科 4 名

実習内容 展示企画立案

#### 博物館実習前半テーマ「絵画作品の展示」

実施日	午前の部	午後の部
8 月 22 日(月)	10:00～ ・開校式 10:10～12:00 ・帝京大学総合博物館の概要	13:00～14:20 ・施設見学 14:45～16:00 ・展示解説実習①
8 月 23 日(火)	10:00～12:00 展示解説実習②	13:00～16:00 展示作業の実際① ・図面の作成
8 月 24 日(水)	10:00～12:00 展示作業の実際② ・資料の取り扱い	13:00～16:00 展示作業の実際③ ・絵画資料の展示 - 1
8 月 25 日(木)	10:00～12:00 展示作業の実際④ ・絵画資料の展示 - 2	13:00～16:00 展示作業の実際⑤ ・照明計画

#### 博物館実習後半テーマ「展覧会の企画」

実施日	午前の部	午後の部
9 月 2 日(金)	10:00～12:00 ・収蔵庫内で資料の選定 ・展示ストーリーの作成	13:00～16:00 ・展覧会タイトルの決定 ・作品キャプションの制作 ・ポスター / パネルの制作
9 月 7 日(水)	10:00～12:00 ・ポスター / パネルの制作	13:00～16:00 ・ポスター / パネルの制作 ・動画の編集
9 月 9 日(金)	10:00～12:00 ・展示作業	13:00～16:00 ・展示作業・講評 16:00～16:10 閉校式

#### ② 授業での博物館利用

ライフデザイン演習を中心として展示解説や博物館の社会的役割についての解説をおこなった。

#### ③ 外部団体の対応

他大学・他博物館・学会等の視察の受入れをおこなった。

### (2) 情報公開

#### ① ホームページの開設

平成 27 年度に開設。館の概要や、展覧会情報等を発信している。

#### ② 印刷物

イ 博物館利用案内リーフレット作成 30,000 部

ロ 外国語リーフレット（英語版）作成 1,000 部

### ③ 報道機関による取材

イ 新聞・雑誌掲載

- ・帝京大学総合博物館紹介「サンデー毎日」2015年12月6日 発売号 毎日新聞出版
- ・「伝統人形芝居－八王子車人形の世界－」紹介 「読売新聞」2016年5月19日朝刊 読売新聞社
- ・「伝統人形芝居－八王子車人形の世界－」紹介 「東京新聞」2016年5月19日朝刊 東京新聞社
- ・「日本書道文化の伝統と継承」紹介 「書道美術新聞」2016年10月15日 美術新聞社
- ・「日本書道文化の伝統と継承」紹介 「墨」2017年3・4月号 芸術新聞社
- ・「日本書道文化の伝統と継承」紹介 「書道界」2016年11月号 藤樹社
- ・「日本書道文化の伝統と継承」図録紹介 「書道界」2017年2月号 藤樹社

ロ テレビ放映

- ・「伝統人形芝居－八王子車人形の世界－」紹介 「デイリーニュース」2016年5月24日 J:COM
- ・帝京大学総合博物館紹介 「地域密着た・ま・て・ば・こ」2016年8月21日～9月3日 多摩テレビ
- ・「日本書道文化の伝統と継承」紹介 「新日曜美術館アートシーン」2016年12月4日 NHK
- ・「日本書道文化の伝統と継承」紹介 「デイリーニュース」2016年11月2日 J:COM

## 3 資料管理・収集・調査事業

### (1) 資料管理

#### ① 博物館収蔵資料管理システム導入の検討

平成29年度の稼働を目的に収蔵資料管理システム導入の検討をおこなった。

### (2) 調査研究

#### ① 目録の作成

イ 大学史関係資料の整理

帝京大学本部秘書室・帝京高等学校・帝京第三高等学校・帝京第五高等学校に所蔵されていた写真資料・校友会誌等の目録作成、及びデジタル化を実施した。

ロ 薬学部所蔵生薬標本の整理

帝京大学薬学部の所蔵する生薬標本の目録の作成を実施した。

#### ② 展覧会関係調査

イ 帝京大学創立期間き取り調査

水落寛二氏（1968年入学）、中里祥雄氏（1968年入学）に帝京大学創立期の学生生活に関する調査を実施した。

### III 資料



# 1 開館状況

(1) 開館時間 9時～17時

(2) 休館日 日曜日・祝日・創立記念日・臨時休館日

(3) 月別開館日数(日)

① 平成27年度 (※9月14日開館)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日	—	—	—	—	—	10	21	19	16	9	6	6	87
土曜日	—	—	—	—	—	2	4	3	2	1	3	3	18
日曜日	—	—	—	—	—	1	1	0	0	0	0	0	2
合計	—	—	—	—	—	13	26	22	18	10	9	9	107

② 平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日	16	13	22	19	15	19	15	21	14	15	12	17	198
土曜日	4	3	4	4	1	2	3	3	2	1	2	0	29
日曜日	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	6
合計	20	16	27	24	17	22	19	24	16	16	14	18	233

(4) 月別入館者数(名)

① 平成27年度 (※9月14日開館)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日	—	—	—	—	—	6,217	3,326	2,360	1,345	763	258	270	14,539
土曜日	—	—	—	—	—	90	1,164	781	213	44	84	129	2,505
日曜日	—	—	—	—	—	217	765	0	0	0	0	0	982
臨時	—	—	—	—	—	0	0	73	0	115	0	0	188
合計	—	—	—	—	—	6,524	5,255	3,214	1,558	922	342	399	18,214

② 平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日	2,513	1,741	1,822	2,156	1,473	1,181	1,452	1,765	1,491	742	637	953	17,926
土曜日	270	230	452	380	507	48	736	1,156	174	13	101	0	4,067
日曜日	0	0	472	636	664	304	364	0	0	0	0	338	2,778
合計	2,783	1,971	2,746	3,172	2,644	1,533	2,552	2,921	1,665	755	738	1,291	24,771

## 2 展覧会別入館者数

### (1) 平成 27 年度

#### (1) 企画展

名 称	会 期	開催日数	入場者数
帝京大学総合博物館開館記念特別展 「アカデミックトレジャーズ展－帝京大学「知」の集積－」	平成 27 年 9 月 14 日(月)～ 平成 28 年 1 月 15 日(金)	89 日	17,400 名

#### (2) その他展覧会

名 称	主催等	会 期	開催日数	入場者数
【プラスティー】 More to Love Teikyo	帝京大学総合博物館・フリーペーパー「+T」編集部	平成 27 年 9 月 14 日(月)～ 平成 28 年 3 月 26 日(土)	107 日	18,214 名
ミュージアムプラザ展示	帝京大学総合博物館(協力： 帝京大学学友会)	平成 27 年 12 月 1 日(火)～ 平成 28 年 1 月 15 日(金)	28 日	2,480 名
帝京大学小学校「平成 27 年度 第 2 回陶芸展」	帝京大学総合博物館・帝京大 学小学校	平成 27 年 10 月 20 日(火)～ 平成 27 年 11 月 28 日(土)	33 日	4,937 名
ラーニングエイジ スライド展	「多世代で共に創る学習プロ グラムの開発検討」研究会	平成 28 年 1 月 5 日(火)～ 平成 28 年 1 月 15 日(金)	9 日	807 名
平成 27 年度帝京大学日本文化学科書道ゼミ・帝京大 学書道部合同卒業制作展	帝京大学文学部日本文化学科 書道ゼミ・帝京大学書道部	平成 28 年 3 月 24 日(木)～ 平成 28 年 3 月 26 日(土)	3 日	147 名
平成 27 年度帝京大学文学部史学科「地理学野外実習 I・II」調査報告「風土見聞録」－愛知県豊田市稲武 地区編－	帝京大学文学部史学科地理学 ゼミ・帝京大学総合博物館・ 古橋懐古館・いなぶ観光協会	平成 28 年 3 月 18 日(金)～ 平成 28 年 5 月 20 日(金)	27 日	4,567 名
		※内、平成 27 年度分 平成 28 年 3 月 18 日(金)～ 平成 28 年 3 月 31 日(木)	5 日	242 名

### (2) 平成 28 年度

#### (1) 企画展

##### ①

名 称			
帝京大学創立 50 周年企画展示 「50 年前の帝京大学～ 1960 年代後半、多摩丘陵でのキャンパスライフ～」			
会 期		開催日数	入場者数
平成 28 年 4 月 7 日(木)～平成 28 年 7 月 27 日(水)		87 日	10,672 名
関 連 イ ベ ント			
名 称	講 師	実施日	参加者数
展示解説会	展示担当学芸員	平成 28 年 4 月 13 日(水) 平成 28 年 5 月 21 日(土)	延べ 5 名
公開座談会「私のキャンパスライフ～ 50 年前の帝 京大学のように～」	水落寛二(帝京大学法学部 2 期生)	平成 28 年 4 月 20 日(水)	11 名
講演会「1960 年代の生活と文化」	鈴木稔(帝京大学大学院日本史・文化財 学専攻教授、帝京大学総合博物館副館長)	平成 28 年 5 月 25 日(水)	31 名

##### ②

名 称	協 力		
帝京大学創立 50 周年記念特別展示 「世界にはばたく！ 伝統人形芝居－八王子車人形の世界」	八王子車人形西川古柳座		
会 期		開催日数	入場者数
平成 28 年 5 月 16 日(月)～平成 28 年 7 月 27 日(水)		65 日	7,794 名
関 連 イ ベ ント			
名 称	講 師	実施日	参加者数
ワークショップ「車人形のしくみを知ろう！」	5 代目西川古柳(八王子車人形西川古柳 座家元)	平成 28 年 5 月 19 日(木) 計 4 回	延べ 82 名
ミニ公演会 ～人形解説つき～	八王子車人形西川古柳座	平成 28 年 6 月 4 日(土)	36 名
ワークショップ「車人形に触れてみよう」	菱山里美(帝京大学文学部史学科 4 年生)	平成 28 年 5 月 24 日(火), 5 月 25 日(水), 5 月 31 日(火)	延べ 12 名

ワークショップ「車人形の表現～喜怒哀楽と『型』」	5代目西川古柳（八王子車人形西川古柳座家元） 細田明宏（帝京大学文学部日本文化学科准教授）	平成28年6月18日（土）	38名
講演会「八王子車人形の伝統と改革－転機となった昭和50年代」	細田明宏（帝京大学文学部日本文化学科准教授）	平成28年7月2日（土）	10名

③

名 称		共 催	
帝京大学創立50周年記念・帝京大学書道研究所創設40周年記念特別展「日本書道文化の伝統と継承－かな美への挑戦－」		帝京大学書道研究所	
会 期		開催日数	入場者数
平成28年10月18日（火）～平成28年12月19日（月）		53日	6,660名
関 連 イ ベ ント			
名 称	講 師	実施日	参加者数
列品講座	高城弘一（大東文化大学教授） 福井淳哉（帝京大学文学部日本文化学科准教授）	平成28年10月22日（土）	43名
シンポジウム「日本書道文化のさらなる発展を目指して」	名児耶明（五島美術館常務理事・副館長）、 土橋靖子（日展会員・大東文化大学特任教授）、 福井淳哉（帝京大学文学部日本文化学科准教授）	平成28年11月26日（土）	216名

(2) その他展覧会

名 称	主催等	期 間	開催日数	入場者数
平成27年度帝京大学文学部史学科「地理学野外実習Ⅰ・Ⅱ」調査報告「風土見聞録」－愛知県豊田市稲武地区編－	帝京大学文学部史学科地理学ゼミ・ 帝京大学総合博物館・古橋懐古館・ いなぶ観光協会	平成28年3月18日（金）～ 平成28年5月20日（金）	27日	4,567名
		※内、平成28年度分 平成28年4月1日（金）～ 平成28年5月20日（金）	22日	4,325名
T-Collection	帝京大学総合博物館（協力：帝京大学学友会）	平成28年4月7日（木）～ 平成28年7月27日（水）	87日	10,672名
シルクロードを掘る－世界遺産アク・ベシム遺跡の調査2016－	帝京大学総合博物館・帝京大学シルクロード学術調査団	平成28年7月1日（金）～ 平成28年7月27日（水）	24日	3,172名
帝京大学所蔵コレクション展	帝京大学総合博物館	平成28年8月26日（金）～ 平成28年10月6日（木）	30日	2,937名
シルクロードを歩く－世界遺産アク・ベシム遺跡の調査2016－	帝京大学総合博物館・帝京大学シルクロード学術調査団	平成28年11月17日（木）～ 平成28年12月20日（火）	28日	3,446名
平成28年度 第3回帝小陶芸展	帝京大学総合博物館・帝京大学小学校	平成29年2月14日（火）～ 平成29年3月1日（水）	11日	623名
平成28年度 帝京大学日本文化学科書道ゼミ・帝京大学書道部合同卒業制作展	帝京大学文学部日本文化学科書道ゼミ・帝京大学書道部	平成29年3月9日（木）～ 平成29年3月10日（金）	2日	84名

(3) 常設展

(1) 帝京大学のあゆみ

名 称	期 間
帝京大学ジョイントプログラムセンター紹介	平成27年9月14日（月）～ 平成28年11月11日（金）
理工学部の最新研究	平成27年9月14日（月）～ 平成28年11月11日（金）

### 3 授業利用

#### (1) 月別集計

##### ① 平成 27 年度 (※ 9 月 14 日開館)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
合計	—	—	—	—	—	9	10	7	6	5	0	0	37
経済													0
経営							2	3					5
観光経営													0
日本文化						1	1	1	2	2			7
史						6	2		1	2			11
外国語													0
初等教育						1							1
教育文化						1	1						2
スポ医							1						1
人間文化									1				1
総合基礎							2	1	1	1			5
資格							1						1
ライフロング								2	1				3

##### ② 平成 28 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
合計	8	7	2	6	0	3	6	5	3	3	0	0	43
経済	1												1
経営	1					2	1	1		2			7
観光経営	1	3					1						5
日本文化				2		1	4	2	1	1			11
史	1			3									4
外国語								1					1
初等教育								1					1
教育文化		1	2	1									4
スポ医		1											1
総合基礎	4	1							2				7
資格		1											1

### 4 団体見学

#### (1) 月別集計

##### ① 平成 27 年度 (※ 9 月 14 日開館)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	—	0	11	21	6	0	0	0	38

〈内訳〉

##### ■ 10 月

東京ガス施設見学会, インターンシップ成果発表会参加企業関係者団体, 東芝 OB 会, 帝京ライフロングアカデミー受講者 (× 2 回), 本庄第一高等学校, 堀越学園高等学校, 帝京大学小学校 (× 2 回), 帝京大学幼稚園 (× 2 回)

##### ■ 11 月

帝京可児高校, 前橋西高校, 多摩地区高等学校進路指導協議会, 大田原中学校, 厚木北高校, 長野南高校, 鶴見総合高校, 富士河口湖高等学校, 帝京大学 50 周年記念誌編集メンバー, 帝京大学中高, 教職センター OB との連絡会, 山梨文化財研

究所友の会，帝京グループ一貫教育会議，帝京ライフロングアカデミー受講者（×2回），帝京大学小学校（×6回）

■ 12月

清峰高校，叡明高校，つくば秀英高校，塩山高校，東村山高校，帝京ライフロングアカデミー受講者

② 平成28年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	2	1	4	4	1	0	5	7	1	0	2	2	29

〈内訳〉

■ 4月

野沢南高等学校，浦和黎明高等学校

■ 5月

毎日新聞旅行社（Tokyo 大学博物館散歩）

■ 6月

帝京第三高等学校，大森学園高等学校，沼津高等学校，桐陽高等学校

■ 7月

八王子実践高等学校，拝島高等学校，帝京長岡高等学校，浦和商业高等学校

■ 8月

群馬県伊勢崎商業高等学校

■ 10月

前橋育英高等学校，本庄第一高等学校，富士学苑高等学校，堀越高等学校，NHK 文化センター町田教室

■ 11月

埼玉県立富士見高等学校，八王子市立第二中学校，山梨県立山梨高等学校，帝京八王子中学高等学校，教職センター（帝京大学OB会との連絡会），山梨文化財研究所友の会，スマートパークス由木

■ 12月

埼玉県東野高等学校

■ 2月

大塚日影自治会，伊東商業高等学校

■ 3月

東京都立府中西高等学校，帝京小学校アフタースクール

## 5 外部視察

(1) 月別集計

① 平成27年度（※9月14日開館）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	—	5	3	9	2	1	2	2	24

〈内訳〉

■ 9月

奥州市教育委員会，東京学芸大学，NPO 法人フュージョン長池，出光美術館，新潟市歴史博物館

■ 10月

ヤンゴン大学，八王子市役所，神奈川県図書館協会

■ 11月

亜細亜大学，玉川大学，拓殖大学，ヤマザキ学園大学，首都大学東京，電通，ピクトリア大学，パンヤピワット経営学院，日野市立ふるさと歴史館

■ 12月

愛媛大学ミュージアム，博物館問題研究会

■ 1月

新生医護専門学校

■ 2月

済州大学，崇城大学

■ 3月

西南学院大学博物館, ジェンデラスデイルマン大学

② 平成 28 年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
団体数	3	2	5	4	0	1	1	1	1	0	2	1	21

〈内訳〉

■ 4月

アダムソン大学, パニャサストラ大学, パンアメリカーナ大学

■ 5月

コロンバス州立大学, 民法典論争期前後における私立法学系高等教育機関の連携と対抗の実態に関する研究グループ

■ 6月

東京学芸大学教員養成教育認定評価, 吉林財経大学, 水原大学, 義守大学, グラナダ大学

■ 7月

八王子市文化財課, 全国大学史資料協議会東日本部会, 東京外国語大学, 中京大学

■ 9月

創価大学図書館職員

■ 10月

カリフォルニア大学リバーサイド校

■ 11月

帝京科学大学学内ミュージアム検討チーム

■ 12月

東京西地区大学図書館協議会セミナー

■ 2月

オルレアン大学, ラオス国立大学

■ 3月

センテニアルカレッジ

## 6 組織 (平成 27 年 9 月 14 日～平成 29 年 3 月 31 日)

### (1) 博物館スタッフ

#### ①館長・副館長

役 職	氏 名	所属等
館 長	南 啓治	帝京大学名誉教授
副 館 長	鈴木 稔	文化財研究所教授

#### ②専任職員 (八王子キャンパス事務部学術情報グループ所属)

役 職	氏 名	備 考
グループリーダー	中嶋 康	
チームリーダー	中満 恒子	メディアライブラリーセンター兼務
係 員	川北 友美	メディアライブラリーセンター兼務
係 員	斉藤 友李	メディアライブラリーセンター兼務
係 員 (学 芸 員)	堀越 峰之	
係 員 (学 芸 員)	加藤稚佳子	

#### ③非常勤職員

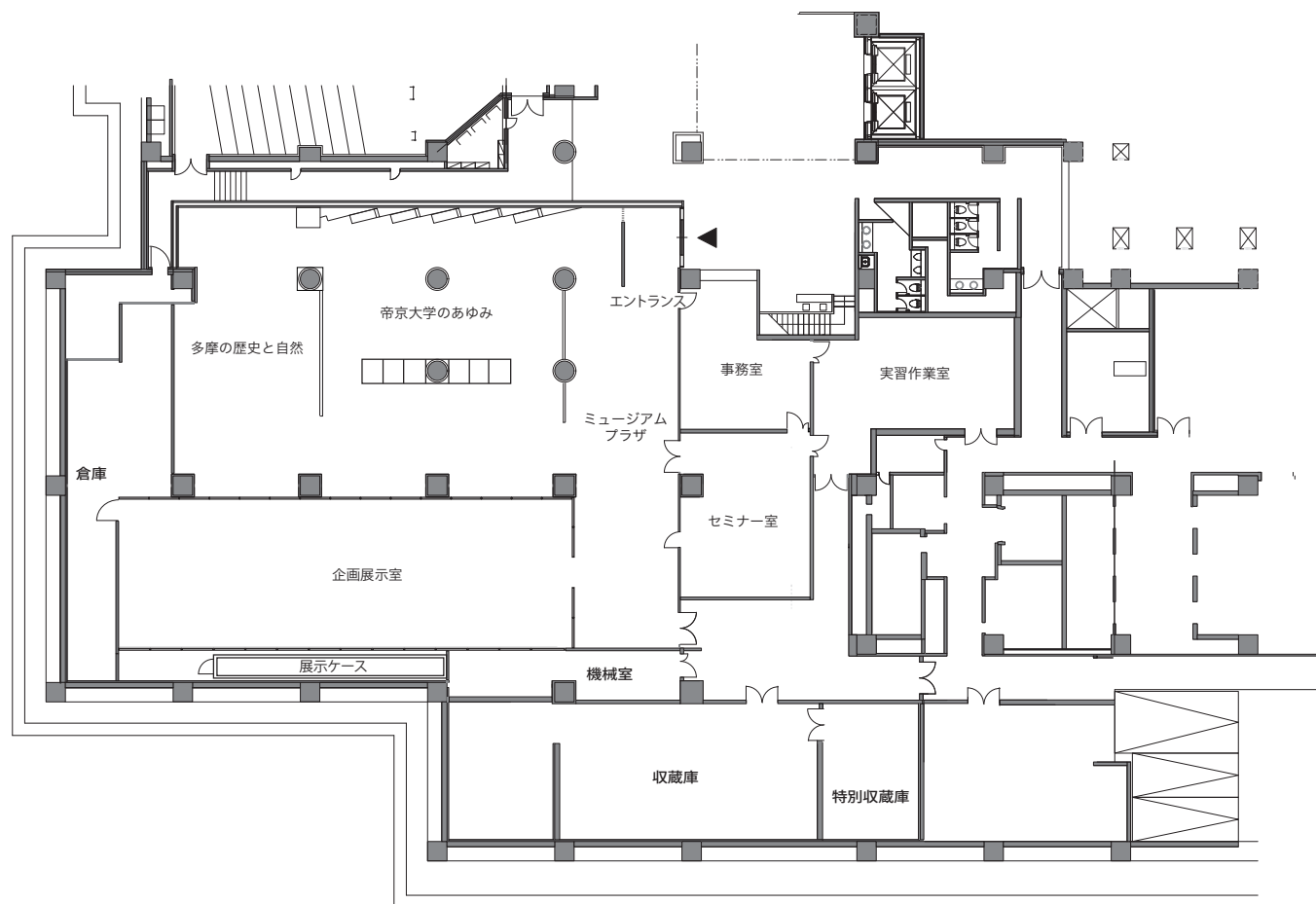
資 格	氏 名
ミュージアムアシスタント(学芸員有資格者)	河島 由弥
ミュージアムアシスタント(学芸員有資格者)	長谷川優也
ミュージアムアシスタント(学芸員有資格者)	稲垣真璃絵(平成28年11月より)
ミュージアムアシスタント(学芸員有資格者)	小林 美穂(平成28年11月より)
パートタイマー	石川 純子
パートタイマー	鈴木 洋子(平成28年9月より)

### (2) 博物館運営委員

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

氏 名	所属等
萩原 治夫	医学部 医学科 教授
栗原 順一	薬学部 薬学部長・教授
西澤 保	経済学部 経済学科 教授
高橋由紀子	法学部 法律学科 教授
福井 淳哉	文学部 日本文化学科 准教授
阿部 朝衛	文学部 史学科 学科長・教授
鳥居千代香	外国語学部 外国語学科 教授
鷲尾 善典	教育学部 教育文化学科 講師
平本 隆	理工学部 航空宇宙工学科 学科長・教授
清水 正典	医療技術学部 スポーツ医療学科 教授
嶺岸 勝文	福岡医療技術学部 医療技術学科 教授

## 7 施設概要



### ■帝京大学総合博物館の設備

所在地 東京都八王子市大塚 359

敷地面積 1,430㎡

建築面積 1,430㎡

建物構造 帝京大学八王子キャンパス ソラティオスクエア（地上22階 地下2階）の地下1階

名称	面積
展示室	621㎡
収蔵庫	220㎡
事務室	56㎡
セミナー室	67㎡
倉庫	98㎡
実習・作業室	85㎡
供用部他	283㎡
合計	1,430㎡

## IV 論文・研究報告

### 〔研究ノート〕

「文化財」と「文化遺産」の語について ……………今村啓爾

### 〔収蔵作品紹介〕

狩野探幽<不二（富嶽図）>と横山大観<残月>

—近世から近代に流れる日本画の水脈……………岡部昌幸

### 〔公開座談会記録〕

私のキャンパスライフ……………話し手：水落寛二氏

聞き手：堀越峰之



## 「文化財」と「文化遺産」の語について

今村啓爾

帝京大学文学部史学科教授・帝京大学総合博物館館長

### はじめに

博物館は文化財や文化遺産とさまざまに関連することが多いが、この2語は同じなのか、違うとしたらどう違うのか、以下吟味を試みたい。とりあえず不可欠な視点は、どちらの語もかなり新しい造語であるにもかかわらず、その短い歴史の中でも意味が変化してきたし、なおも変化し続けていることである。

日本語の「文化財」と「文化遺産」という言葉は、どちらも制度や法律とともに作られた新しい言葉である。「文化財」は1950年制定の文化財保護法とともに造語され、「文化遺産」は世界遺産条約の批准とともに1990年代から使われるようになって、急速に普及してきた言葉である。これら2つの言葉は類似するけれども、異なる言葉として区別される。これらを定義し区別するにあたって、「文化遺産」の語はより新しく作られ、その意味と範囲も急速に変ってきたことを念頭におく必要がある。本稿は何らかの結論をめざすものではなく、「文化財」と「文化遺産」の意味の違いに疑問を持たれているかたたちのためのメモ程度のものお考えいただきたい<sup>1)</sup>。

### 1 「文化財」と「文化遺産」の語の始まり

「文化財」という語は1950年に文化財保護法が制定されたときになされた cultural properties からの訳語であり日本語としては比較的新しい語である。「文化遺産」という語は cultural heritage の訳語で、1972年ユネスコ総会で締結された世界遺産条約が、1992年にわが国でもかなり遅れて批准されて以来広く用いられることになったさらに新しい日本語である。

われらが帝京大学の「文化財研究所」の名称は1986年6月に財団法人山梨文化財研究所が設立されて以来のものであるが、当時はまだ文化遺産の語は一般的でなかったため、「文化財」が名称として選ばれたのは当然であった。2012年には帝京大学大学院の文学研究科内に「日本史・文化財学専攻」が設置されるのに伴い、研究所は帝京大学付属の「帝京大学文化財研究所」と「公益財団法人山梨文化財研究所」に組織上分離され、帝京大学文化財研究所は大学院文学研究科日本史・文化財学専攻の研究・教育も担当することになった。

2015年には文学部史学科内に「美術史・文化遺産コース」が設置され、そのコースへ進むための必修科目として「美術史・文化遺産概説」が開講され現在に至っている。

このように文化財と文化遺産の語の使い分けは、帝京大学内の施設・学科名に関してすら複雑で、何らかの説明と整理が必要になっている。

ただ困ったことに、世の中でこれらの用語が意味する範囲は時間とともに変わっており、一般社会における用法も変化し続けているのが現状なので、現時点で定義の整理を行ったとしても、将来にわたって不変の説明になる保証はないことをお断りしておかなければならないし、「(日本の)重要文化財」や「世界文化遺産」は、法律や制度の裏付けによって言葉の使用範囲も決まっているが、世の中一般で用いられる「文化財」や「文化遺産」の語は、語り手が自分なりに意味付けるかぎりにおいて適用範囲を制限されるようなものではない。

日本で「文化財」の名称が確立するまでには相当に長い紆余曲折があった<sup>2)</sup>。1871年(明治4)出された太政官布告は「古器旧物保存方」であり、法律名称に「古いもの」という以上の意味規定はできていなかった。1897年(明治30)には「廃仏毀釈」の風潮の中で起こった社寺の荒廃を背景に、「古社寺保存法」が制定され、社寺所有の建造物と宝物類を対象に、国宝と特別保護建造物の指定が図られた。1929年(昭和4)には古社寺保存法に代わり、より広範な所有者の有形文化財を保護の対象とする「国宝保存法」が制定された。しかし重要なものをすべて「国宝」と呼んで保護することには抵抗があったようで、1933年(昭和8)に国宝に次ぐような第2ランクの物品について「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」が制定された。この法律は戦後には持ち越されず、戦後1950年(昭和25)の「文化財保護法」の制定によって廃止され、はじめて「文化財」の語が用いられ、保護されるべき対象の整理が行われた(このとき重要美術品の認定は制度としてはなくなったが、戦前にそう指定された物件は、その呼称を続けて用いてもよいとされている)。

「文化財保護法」ではできるだけ多くの分野にわたって日本の歴史・文化を代表する物件がカバーできるように工夫がなされた。その第二条において「文化財」の6種類の分類が提示され、そのうちで国が重要性を認めたものを「重要文化財」として保護し、「国宝」はそのうちでも特別な重要性を有する選りすぐりのものということになった。国宝でない重要文化財は戦前の重要美術品の位置づけに近いことが理解できるであろう。「文化財」は法律的な定義を伴って出現した語ということになる。

文化財保護法が対象にするものの範囲は広く、当時諸外国では保護措置の対象とされていなかった無形文化財まで含まれたことは特筆に値する。そして改正のたびに保護対象の範囲が広げられ、諸外国の文化財（遺産）保護制度よりもはるかに広範な分野をカバーする制度になった。

## 2 ヨーロッパの保護制度と「文化遺産」

ここで比較すべきはヨーロッパの保護制度であるが、建築や土地に密着する史跡など不動産のみが対象にされ、個々の移動可能な動産や我が国の無形文化財に相当するものの保存制度は近年に至るまで存在せず<sup>3)</sup>、保護のためのキーワードとなる「文化遺産」は、不動産に限定される概念であった。

なぜヨーロッパの文化遺産に動産が含まれないのか。いくつかの原因が考えられるが、ヨーロッパでは歴史的に国境線が変わることが繰り返され、王室同士が親戚関係にあって婚姻に際して文化財が移動することも多く、個々の文化財を歴史上あるいは現在のどの国の文化的所産であると規定しにくいことがひとつの理由であろう。その点で不動産のほうは存在する場所と現在の国籍に従えばよいから簡明である。文化財のような物品が財産としての価値を強調され、オークションなどで頻繁に所有者が変わることも、動産を文化遺産や文化財として公的な保護管理下に置きにくい原因になっているように見える。

1992年に我が国でも批准されたユネスコの世界遺産制度のルーツは、ヨーロッパにおける保護制度にあり、ヨーロッパの文化遺産の概念を引いている。ために世界遺産制度でも保護の対象にされるのは不動産に限られることになった（たとえばイギリスにおける公的な保護機関はイングリッシュ・ヘリテッジ English Heritage である）。この違いが日本語の「文化財」と「文化遺産」がカバーする範囲の違いを生み出すことになったのである。即ち、

文化遺産・・・不動産  
文化財・・・不動産と動産を含む有形文化財と無形文化財など

この段階ではまだ「文化財」と「文化遺産」の範囲の違いはそれほど分かりにくいものではなかった。前者が不動産のみであることを覚えておけばよかったのである。

## 3 「無形文化遺産」制度の与えた語義の変化

文化遺産の語義の大きな変化の原因は、2003年のユネスコ総会における「無形文化遺産保護条約」(Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage) 締結によって起こった。2003年以前はほぼ同じ条約による指定物件は Masterpiece of the Oral and Intangible of Humanity (言葉通りに訳すと「人類の口承及び無形遺産の傑作」と呼ばれたが、この年を境に Intangible Cultural Heritage、訳すと「無形文化遺産」と呼ばれることになった。

ここにおいて「文化遺産」の語の範囲に、不動産だけでなく無形の文化遺産が含まれることになった。「無形文化遺産」はほぼ日本の「無形文化財」に相当する概念なので、不動産どころか動産として数えることもできない「無形文化遺産」まで「文化遺産」に含まれることになった。この変更によって法律・制度的な用語としては

文化遺産 (cultural heritage)・・・不動産の有形文化遺産と無形文化遺産  
文化財 (cultural properties)・・・不動産と動産を含む有形文化財と無形文化財

となり、これらの言葉が区別して使われることになったはずであるが、このような言葉の範囲の使い分けは、一般社会における言葉の使い分けとしては複雑に過ぎ、結果として文化遺産と文化財はほぼ同じものという認識が広まることになったようである。

もう一つの新しい動向は、世界文化遺産制度の社会的認知によって、「文化遺産」(cultural heritage) という語が「文化財」より上位にあるという正しいとはいえない認識が、日本の一般人の間に広まったことである。文化遺産の語は世界文化遺産と結びつき、国際的な機関による指定というお墨付きをもらった物件であることを意味する。しかも我が国で指定された重要文化財が約1万3千件あるのに対してユネスコの制度で登録された我が国の世界文化遺産は2017年7月現在で17件しかない(1点の登録に複数の構成資産が含まれるものがあるので、それを1点ずつと数えるともっと多くなる)。数の少ない文化遺産にはどうしても「選りすぐり」のイメージが伴う。毎年世界遺産委員会が開催される時期になると新聞やテレビで大きく取り上げられ、次いで新登録地への観光客の殺到が起こる。「文化財」にくらべて「文化遺産」の人气が高まるのは当然である<sup>4)</sup>。松田陽による文献数のカウンティングでは我が国でも1992年の世界遺産条約の批准以来、「文化財」よりも「文化遺産」を使用する文献数が急速に増えている。

このような動向を象徴しているのが、文化庁の運営する Web Site「文化遺産オンライン」の命名法である。「国指定重要文化財等データベース」に代わるものとして始まったらしいこのサイトの名称として、当時日本国の制度や法律にはどこにも規定のなかった「文化遺産」の語が採用されたことによって、「文化遺産」の語の「文化財」の語をしのぐ人気を迫認する形になった。

#### 4 「世界記憶遺産」から「世界の記憶」への訳語変更

「文化遺産」人気は、少し前まで日本で使われた「世界記憶遺産」という語にも表れている。これはユネスコの世界遺産制度とは別部門で行われている峻別すべき事業の名称で、もとの語は Memory of the World であってそもそも「世界記憶遺産」と和訳するのは不相当であったのに、「世界遺産」になぞらえると分かりやすいと思われたのであろうか、日本では「世界記憶遺産」と訳されるのが普通であった。しかし中国の推薦による「南京虐殺の記録」が、日本の異議申し立てにもかかわらず認定されたことなどもあって<sup>5)</sup>、Memory of the World は世界遺産の1種ではないのだということを強調するため、日本ユネスコ国内委員会は「世界記憶遺産」の呼称をやめ「世界の記憶」の呼称を使うことに決めた。

#### 5 「世界文化遺産」制度の性格の変化と「日本遺産」制度

「世界文化遺産」はその発足以来現在までに少しずつ性格を変えてきたが、世界遺産委員会の構成員が替わり、構成員の考え方も変わりうる以上当然のことであり、今後も変わっていくであろう。世界遺産の登録は、単体での登録からシリアルノミネーション（あるストーリーに沿う複数の物件をセットとして登録する）重視の方向に向かいつつある。そしてそのストーリーには不動産だけでなく現在に続く行事や活動のように無形のものまで含む傾向が強まりつつある。また世界遺産条約加盟国のすべてが少なくとも1件の世界文化遺産を国内に持てるようにとの要請もあって、世界遺産を幅広くとらえ、「産業遺産」、「近代化遺産」などが重視される傾向にある。

このような世界文化遺産の近年の傾向を日本国内で一步進め、「文化遺産」の語義にも影響すると予想されるのが2年前の2015年に開始された文化庁の「日本遺産」の制度である。文化庁のホームページ「日本遺産」で明確に述べられているように、「この制度は世界遺産登録や文化財指定のように文化財（文化遺産）の価値付けを行い、保護を担保することを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている。」そして認定に当たってはストーリーが重視され、有形・無形の垣根を越え、すでに日本国の指定を受けている重要文化財や史跡を含むあらゆる文化財を対象にすることができる。

一部私の推測も交えて平易に書くなら。ユネスコの世界遺産に地域の物件が登録されると、観光客の殺到が起こり、地域活性化に役立つことが多い。そのため世界文化遺産登録をもっと進めたいところであるが、1か国からの世界文化遺産登録は、非常にスムーズに運んでも年に1件に過ぎない。そこで日本政府がもっと自由に自分で認定できる世界遺産の日本版として考案されたのが「日本遺産」制度なのである。しかもそこではストーリーの重視、有形・無形のあらゆる「文化遺産」を対象にすることが明瞭に謳われている。当然「文化遺産」の語義にも大きく影響していくであろう。

新たに決められた「日本遺産」制度を含めて今一度「文化財」と「文化遺産」の語を比較すると、前者が基本的に物そのものを指す言葉なのに対し、後者は物そのものを指すと同時に、利用などの運用面を重視する言葉で、その傾向は時間とともに強まりつつある。

#### 6 これから言葉の使い方はどう変わっていくであろうか

本稿は複雑でわかりにくくなっている「文化財」と「文化遺産」の用語を整理しようと思って書き始めたが、結局かなり錯綜した記述になってしまった。その原因は言葉というものが有する意味範囲のあいまいさに起因する部分があるだけでなく、言葉の意味する範囲が時間とともに変わっていくことによるところが大きい。

ある時点までは「文化財」は動産・不動産を含む「もの」に対して用いられ、「文化遺産」は不動産に限定される「もの」が対象であった。「文化財」のほうはその後も大きく変わってはいないが、「文化遺産」のほうは伝統を保持する貴重な「もの」という意味に加え、地域活性化など実利に結びつく可能性をもつ資産であることが強く含意される傾向にあり、ストーリーの重視、有形・無形の垣根をとりはらうといった、「文化財」の語には顕著でなかったいくつかの意味あいも強調される傾向にある。このような「文化遺産」の語の使い方は、今後その意味・用法まで変えていくことになるであろう。

「帝京大学文化財研究所」は、動産であるところの個々の文化財を主要な対象としてその分析や研究、保護・修復にあたっている。だから今でも「もの」を主体とする「文化財」の語がこの研究所の名称としてふさわしい。しかし地域活性化への有効利用や有形無形の垣根を超えるストーリー性重視のなかで、「文化遺産」の語はこれからも好まれ人気上昇していくであろう。すでにイメージとしては「文化遺産」のほうが「文化財」より優位になっていることを指摘したが、今後他大学での学科新設でも、魅力的に響く「文化遺産」の名称のほうが好まれていくであろう。そして「文化遺産」の語義の拡大の中で、「文化遺産」と「文化財」の意味の違いはしだいに意識されなくなっていくことが予想されるのである。

#### 〈註〉

1) 本稿全体を通して下記の文献のほか文化庁運営の Web. Site「文化庁」「文化財」を参照した。

- 2) 松村恵司 2010 「日本における文化財保護思想の発展と文化財保護法の沿革」『月刊文化財』2010年10月号
- 3) フランスでは1980年に Tresors Nationaux Vivants (生きている国宝) 制度、中国では2011年に「中華人民共和国非物質文化遺産法」が制定された。
- 4) 松田陽 2013 「パブリック・アーケオロジーの観点から見た考古学、文化財、文化遺産」『考古学研究』60巻2号
- 5) この制度では、申請国の申し立てをユネスコの係員が審査することになっており、申請国以外の関連国が異議申し立てをするしくみがない。この制度的欠陥を利用して、政治的問題の白黒をユネスコが申請国の主張通りに判定したかのように扱い、政治的論争を有利に導く試みが行われるようになっている。

## 狩野探幽《不二（富嶽図）》と横山大観《残月》 —近世から近代に流れる日本画の水脈

岡部昌幸

帝京大学文学部史学科教授

### 1 隠された2作品のつながりから見える収集の意図、コンセプト

当館の作品コレクションを紹介するにあたって、最初に取り上げたいのが、狩野探幽《不二》と横山大観《残月》の2作品である。その際、1点ではなく、2点合わせて紹介するには理由がある。美術史上でこの2点を結んだ方向に、当館・帝京大学所蔵の日本画コレクションの収集の軸が見えてくるからである。その軸線を探り出すことから始めてみたい。

この2作品は、当館所蔵の日本画の代表作品として、2015年の開館記念展にも展示された。作者である探幽、大観は、いうまでもなく、ともに近世、近代の大画家、巨匠であり、2作品がその本画であることも価値が高いからである。

しかし、それぞれ単独に客観視すると、1点は江戸時代初頭の狩野派の、歴史文学画題・有職故実題材に基づかない異色の風景小品。1点は明治末の近代日本画の西洋の明暗・光線表現を模索した、いわゆる朦朧体の時期の実験的作品と、それぞれ規定することも可能である。必ずしもそれぞれが、この時代を代表する2人の巨匠の典型的な代表作品とは呼びにくく、若干、特殊な作品ともいえなくもない。現代の美術界では、「富士」は「薔薇」と同じく、もっとも通俗的な画題として知られる。また、知名度の高い大観の作品のなかで朦朧体の作風は、通俗的とはいえない。

だが、一見しただけでは、歴史的にも内容的にも、かけ離れ、とてもひとつくりにできないかのような2作品の組み合わせに、実は当館のコレクションに潜む、隠された収集方針の一端がうかがえることを本稿で指摘したい。2作品は孤立ではなく、二つの基準点であり、それを結ぶ線が軸線となると思う。そして、その軸線とは、「江戸狩野と芳崖、近代日本画」と考えたい。

この2作品は、さらに当館蔵の下村観山《楊柳観音》も併せて、そのコンセプト、構想を具体的に表す設計の測量地点のように、収集されたのであろう。そして、このコンセプトが実に巧妙で、重要な意義をもつものであるかは、その延長線上の視野に、当館の現コレクションを特徴づける第一のものである東京藝術大学・大学院日本画専攻の卒業・修了作品の秀作コレクションを取めることができるからである。そうした当館の日本画のコレクションをしっかりと結び付けるものが、本稿で指摘するコンセプトであり、その結果、そのコンセプトが館の収集の大きな「柱」となって浮かぶことになるに違いない。

この作品の収集は、経緯を鑑み1980年代前半に行われたと推察されるが、1970年代までの美術史学界では、幕府御用絵師・江戸狩野派の評価は必ずしも高くなく、粉本主義による矮小化された系譜として低く評価されていた。

狩野探幽(1602-74)は、400年以上にもわたる栄華を誇った狩野派の歴史の中で、中興の祖とされる大画家で、豊臣から徳川へ覇権が移り、京・大阪から江戸に文化の舞台が変わった大きな動乱期に、江戸幕府の御用絵師となり恙なく権力を保持しただけでなく、前代の祖父・狩野永徳の華麗なる桃山の金碧障屏画様式から、優美・洒脱な絵画様式に変換させ、新たな時代様式を確立した。その画風は、血縁とともに堅固な画塾・画論によって継承され、尚信(1607-50)、安信(1613-85)、益信(1625-94)、常信(1636-1713)など、江戸狩野三家の各絵師たちに受け継がれ、見事な流派を築き上げた。しかし、明治以降の美術史学のなかで、江戸狩野派全体のアカデミズム的体質と粉本主義への批判から、その始祖である探幽の芸術自体そのものへの正当な評価が遅れてしまったといえる。

その再評価のきっかけをつくったのが、東京国立博物館の細野正信氏(1926-2007)による、狩野芳崖の研究であったといえよう。細野先生には、私が早稲田大学でご指導を受けていたが、本学のコレクションの収集に関わられたとうかがった。先生は、芳崖の芸術を理解するために、その芸術の基礎となっている江戸狩野派の再評価を試み、「近代日本画の父、狩野芳崖の新発見作品26点を初公開。さらに“江戸狩野”をはじめ本格的に取り上げ、近世日本絵画史の主流をなした狩野派の衰微をドラマチックに解説した画期的な書」とされた『江戸狩野と芳崖』(小学館、1978年)を著された<sup>1)</sup>。

芳崖(1828-1888)は、盟友の橋本雅邦(1835-1908)とともに幕末の木挽町狩野家当主晴川院養信に高弟、塾頭として勤め、明治維新後、岡倉天心、アーネスト・フェノロサに請われて、彼らの意見を入れ、観画会で活躍し西洋画の技法にも学び、「新日本画」の樹立に模索した。その成果と美学、様式は、芳崖没後単独で、東京美術学校の筆頭教授となった雅邦により、東京美術学校の生徒に教育され、その第1回卒業生であることを意識し、誇りとしたのが横山大観(1868-1958)であった。こうして、もっとも固陋なアカデミズムが崩壊され、斬新で前衛的な近代日本画へと転身するなかで探幽の系譜は、途切れることなく継承されたのである。ともに新しい時代の絵画を切り拓いた江戸初期の探幽、明治の大観は、間にあった「江戸狩野」を振り返ることで、ともにその清新さを理解することが可能となる。大観は実は探幽とつながっている。その研究を促されたのが、細野氏であったのである。

2002年の探幽生誕400年展を契機に、近年、探幽の作品が見直されている。探幽の風景、草花の写生は円山応挙らに先駆けた。

そして、余白をいかした優美・瀟洒な新しい絵画様式、限られたモチーフで詩情溢れる、清新で豊かな空間を創造した点が探幽芸術の優れた点として評価されている。その風景の写生による「詩情溢れる、清新で豊かな空間」を色彩によって表現したのが、大観の《残月》であるといえよう。こうして系譜のみならず、技法、美学においても2作品は相通じているのである。

## 2 狩野探幽《不二》について

次いで、作品の紹介に移る。まず、探幽の作品のデータは以下のようである。

絹本墨画 38.8 × 88.6cm

探幽斎「守信」朱文瓢形印 箱書き(表)「横物 不二 探幽齋筆」

ここで本作を「不二」と称したのは、この箱書きに基づく。

近年、本作は「江戸の狩野派 ―優美への革新」展(出光美術館、2013年11月12日～2013年12月15日)に出品された。展示では、IV章「写生画と探幽縮図」の構成作品として、静岡県立美術館所蔵の《富士山図》(寛文10[1670]年)と並べられた。現在知られている富士山図25例(山下善也氏の考察による)のうち、探幽が切り拓いた新しい写生の作例として静岡県立美術館所蔵作品とともに展示され、さらに《富嶽図巻》(寛文2[1662]年、個人蔵)と比較することにより、探幽自身の本[ママ]箱根、原、吉原等現地での写生による富士山の描写との整合を確認することができた。

同展の企画者で図録執筆も担当された出光美術館学芸員・宗像晋作氏は、静岡県立美術館所蔵《富士山図》と対比し、本作を「水墨による探幽の富士山の作例である。」という。そして、本作も「柔らかい外隈で表されて」おり、静岡県立美術館の作品が「村落や山道、樹木などの点景モチーフを描」いているのに対し、本作は中景、近景の細部の描写はまったくなく、雄渾な雲烟描写ですべてを覆ったがゆえに、逆に富士そのものの姿が際立つことになり、「不動の富士」として、「それを取り巻く動勢あふれる雲烟描写が見どころとなっている。」と評価する。「また、その雲烟にみられる微妙な水墨の暈しと対照的に、大和絵的な水波をあらわすシンプルな線描の繰り返しが静かな画趣を生んでいる。」ことに着目し、「淡く柔らかい日本的な水墨画といえ、探幽様式の一つの典型が示されている。」と位置付けられている<sup>2)</sup>。

たしかに、本作は富士の山影の空に墨を延ばしたいわゆる外隈の技法で、富士(不二)を白い地で残した描き方、表現としては、典型といえることができるであろう。静岡県立美術館の《富士山図》と異なるもう一つの特徴は、山頂から途中雲烟を挟むと、右の裾野では墨彩による陰影が反転して裾野に墨が付けられ、外隈ではなくなることである。同様に、左の裾野では、大きな「動勢あふれる雲烟描写」が、実は、濃い墨で地上から湧き上がる白い蒸気のような雲と小山であり、山道と村落のある静岡県立美術館蔵の作品と同じ構図であることが判明し、それが大胆に描かれているとも思える。

さらに、幕末の狩野派の橋本雅邦は、探幽の「淡墨」を学ぶべきことを推奨したからわかるように探幽の表現は、後世にまで尊重されていた。探幽の直前の世代の宗達が編み出した水墨の表現「たらし込み」に倣い、別の表現で水墨を極めたのが探幽の表現であると考え、この富士に見られる探幽の雲烟描写は、水墨に新しい可能性を開いたと考えられる。

静岡県立美術館の《富士山図》をより、大胆な墨彩により発展させた作例と考えることもできよう。すると、帝京大学蔵の本作は、静岡県立美術館蔵《富士山図》(寛文10[1670]年)より、あとの作品と考えられることになる。实景を写生した《富嶽図巻》(寛文2[1662]年、個人蔵)の8年後に、田園図として理想化され作品化された富士が描かれた。本図は、さらに数年後に、より幽玄な世界に深められ、象徴化された富士図といえ、その変化に、桃山様式から隔絶し、新たな精神主義に傾倒した探幽の作風の進化を認めることができる。探幽は1674(延宝2)年に亡くなるので、1670-1674年の最晩年、探幽70歳前後の制作と推定したい。

そして、探幽の類似作品を比較検討していくと、大阪の法楽寺に残る探幽の《富士十二景図》は、縦物ではあるが、本作とほぼ同様の構図が見られる。風景画における「探幽様式」の完成といえよう。

《富嶽図巻》は『生誕四〇〇年記念 狩野探幽展』でも展示され、「現存中もっとも魅力的な探幽の風景写生」とされ、「富士山や周囲の山々を写し取った伸びやかな墨描、藍・代赭・胡粉などのみずみずしい淡彩」により、「近代の画家の風景スケッチを先取りした新鮮な視覚が、ここに示される。」<sup>3)</sup>と絶賛されたが、それは写生であった。それが年月をへて、探幽のなかで作品として昇華され、ついに、象徴的作品にまでいたったことになる。

いっぽうで、細部を省略した外隈による富士山の表現は、「探幽様式」として確立し、後代の絵師に、富士山の基本構図として引き継がれていく。その一例として、狩野養川院惟信の《石橋山・江島・箱根図》3幅のうち「箱根」(東京国立博物館)、木村探元《富士山図》を挙げたい。

探幽が江戸幕府に従って、江戸に移ったことにより、いまだ天皇が住み、文化の中心であった京都に上洛する必要ができた。江戸・京を往復する機会を得たことにより、探幽は实景を観察することができた。实景のなかでも、実際に見る富士は、格別なものであり、その自然美が探幽にさらに写生の重要性に気付かせ、その感動から富士を新技法によって、象徴的に描く表現を見出させ、ついには「探幽様式」を確立するのに貢献したといえるのではないだろうか。富士の画題における「探幽様式」は、外隈の表現を活用して描かれた、新しい写生をもとにした風景表現を切り拓いたといえる。

### 3 横山大観《残月》について

作品データを次に掲げる。

絹本着色 115.2 × 61.1 cm

大観 朱文長方印「鉦鼓洞」

共箱 中村鶴心堂による大和、三段表装 大観記念館鑑定 わ第3号

1981年発行の『横山大観』（大日本絵画）正編の明治の巻にカラー図版で掲載され、1910（明治43）年の作品として分類されている<sup>4)</sup>。

制作年代については、明治40年代の横山大観の個性的な落款、いわゆる「撥ね落款」があり、大観が日本美術院の画家たちが岡倉天心の指導により試行した日本画の画風で、空気や光線などを表現するために、輪郭線を用いずにぼかしを伴う色面描写を用いる「朦朧体」の作風の直後の色面表現や西洋画のタッチを模倣した筆さばきが見られる時期を経て、初期文展で、さらに意欲的、実験的な作品を発表した年代の典型的なものと考えたい。筆線でくくった輪郭を用いずに、モチーフの形態を直接に彩色または水墨で描く伝統的な表現、没骨法に大胆に西洋画法を取り込んだ手法をもっとも明瞭に示す作例の一つとして評価できる。

朦朧体は、西洋画風の大气描写を日本画の新しい表現として実現させるために始めた実験的作風であった。混濁した色彩による曖昧模糊とした画風や、当時は日本画の基本と考えられていた墨線の否定が、当時の批評界では、東京美術学校を天心とともに追われ野に下った日本美術院の立場とあいまって、好古の批判の対象とされ、非難、揶揄として「朦朧体」「縹緲体」との蔑称を生んだ。大観らは、この危機を、琳派ほか古美術研究を進めることと、対外的に資金調達も含めアメリカ、ヨーロッパへの進出することで転機を図るが、それがいっそう西洋絵画を学習することに通じ、アメリカで日本美術の影響を受けたホイットラー、ダウらの表現と親和性を見出され、高い評価を得ることで、画風のさらなる進展を示した。水彩的表現をとり、朦朧体の色彩混濁を解決し、その後は筆線よりも色彩を重視する方向性を洗練させ、明治末頃には琳派的な新画風を創出していく。その作風がこの《残月》には見られる。

本作で印象深いのは、雲の重なりに月の光が微妙に反映する夜空の青い色彩であろう。大観作に必ずしも頻繁に現れないが、1909（明治42）年の《巖上の両雄》（対幅、絹本着色）の空の表現は近いものとして挙げられる。本作では山端から湧き上がる雲に、横にたなびく細い層雲が複雑に重なる描写に発展し、より複雑な表現となっているため、《巖上の両雄》より本作のほうがあとの作品と考えられる。

本作《残月》では、色彩と明暗の変化で多数ある雲に奥行感を表現しているが、同じく樹木においても単色を筆の重ねることで、陰影を変化させ、立体感、遠近感をよく表現しているところが、作者の試みとねらいであることは間違いない。《巖上の両雄》においては、険峻な岩肌に同種の筆致がみられ、芸術表現の模索の日々であったことがうかがえるが、本作ではその実験が進化している。樹木の描写で山並みの構造も浮かび上がらせ、その木々が画面に律動を与えた、実験的かつユニーク、秀逸な構図が生まれている。はるかあとの昭和の日本画壇の風景画の大家たちの淵源を思わせる作品であり、初々しい美しさを感じられる。

洋画の筆のタッチを取り入れたと指摘を受けることのある、文展出品作で注目された作品《山路》は翌1911（明治44）年の作品であり、本作で試みた色彩、陰影、構図の実験的表現が、《山路》に引き継がれたともいえよう。

大観の意欲的試みによって、夜空を青い色彩で描き、雲を陰影で描き、さらに手前の低い雲と重層的に描き立体感、樹木の陰影による奥行き表現など、色彩、遠近法を駆使した、新しい日本画の風景作品となっている。

探幽の画風は、ついに、西洋画との融合を生み出したのである。

#### 〈註〉

- 1) 細野正信、『江戸狩野と芳崖』、小学館、1978年。
- 2) 「江戸の狩野派 一優美への革新」展図録、出光美術館、2013年11月、103頁。
- 3) 山下善也、作品解説、『生誕四〇〇年記念 狩野探幽展』図録、日本経済新聞社、東京都美術館、2002年、230頁。
- 4) 大智経之監修『横山大観 第一巻 明治』、大日本絵画、1981年3月、358頁。図版載は217頁。



图1 狩野探幽 《不二》

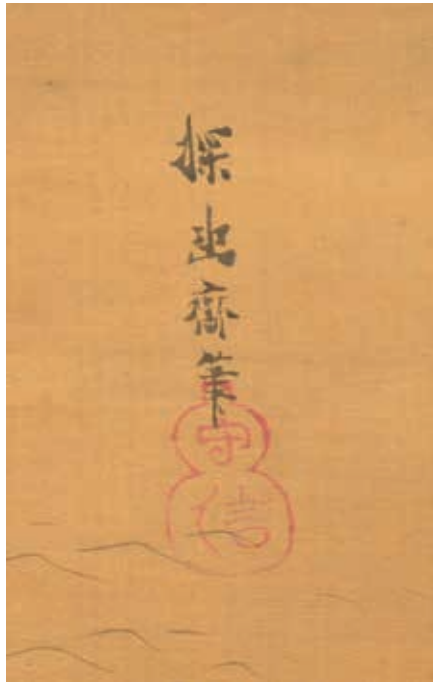


图2 落款印章



图3 箱盖(表)





图4 横山大観 《残月》



图5 落款印章



图6 箱蓋(表)



图7 箱蓋(裏)

## 私のキャンパスライフ

話し手：水落寛二氏  
帝京大学法学部 2 期生、  
1968 (昭和 43) 年度入学

聞き手：堀越峰之  
帝京大学総合博物館学芸員

### 掲載にあたって

本報告は、2016 (平成 28) 年 4 月 20 日に実施した帝京大学創立 50 周年企画展示「50 年前の帝京大学～1960 年代後半、多摩丘陵でのキャンパスライフ～」の関連イベント「公開座談会 私のキャンパスライフ」の記録である。帝京大学創立期についての学生生活についての記録は極わずかであり、当時の学生生活の記録として非常に貴重であることから館報に記載することとした。

**【堀越】** 本日は帝京大学総合博物館にお越し頂きまして誠にありがとうございます。只今から、帝京大学総合博物館企画展「50 年前の帝京大学～1960 年代後半 多摩丘陵でのキャンパスライフ」の関連イベント、「公開座談会 私のキャンパスライフ」を開催いたします。今回のイベントの趣旨は帝京大学創立期に、完成したばかりのキャンパスで学生生活を過ごした OB の方を招いて当時のお話しをお聞きしようというものです。本日は、帝京大学が創立して 3 年後の 1968 年に入学した水落寛二さんをお迎えいたしました。本日はよろしく申し上げます。

**【水落】** 水落寛二です。よろしく申し上げます。

**【堀越】** それでは、簡単に水落さんのご紹介をさせていただきます。水落寛二さんは、1946 (昭和 21) 年、新潟県にお生まれになりました。1968 (昭和 43) 年に帝京大学法学部に入学、卒業後は練馬区役所へ就職し、お仕事をしながら司法試験のための勉強を続けておりました。2006 年、練馬区役所を定年退職し、その後も法律の知識を活かし、練馬区農業委員会に勤務なさいました。このように大学を卒業後、様々な場所で活躍された水落さんです。それでは、早速、インタビューさせていただこうと思います。ちなみに、今日、水落さんが着ていらっしゃるスーツですが、「模擬裁判の様子」(図 36) という写真がありまして、そちらの弁護士が水落さんです。その時に着たスーツを今日、着ていらっしゃったそうです。

**【水落】** 51 年間、体形が変わらないのです。もしかしたらお腹が入らないかと思ったのですが、今日出してみたら入りました(笑)。祖母が成人式のお祝いにお金に糸目をつけないからといって、洋服屋さんに頼んで職人さんに作ってもらったものです。ただ、ほころびたところが破れてしまうのが怖いと思って、替えのズボンを持ってきました。女房には反対されましたが、52 年前のものでした。

**【堀越】** そのようなゆかりの品の思い出なども是非聞かせただければと思います。今回の展覧会開催に関しましてわからないことがたくさんあったのですが、水落さんに当時のことをお聞きして明らかになったことがたくさんありました。そのようなお話でもできればと思います。最初に私から帝京大学ができた頃の社会的背景の話を見せていただきまして、それから帝京大学の話に移ろうと思います。

まず、帝京大学が生まれた頃の社会についてです。帝京大学ができたのは 1966 年ですが、60 年代にはいろいろなことがありました。ベトナム戦争が始まり 1965 年あたりから、かなり激しくなって泥沼化していきました。それに伴って反戦運動が各国で高まった時代でもあります。その他、キング牧師の黒人解放運動を始めとして差別や、虐げられてきた人々が声を上げた時代でもあります。そして、60 年代の最後の年である 1969 年にアポロ 11 号が人類で始めて有人月面着陸に成功します。

日本国内では、1960 年に日米安全保障条約の反対闘争が繰り広げられます。安保闘争が終わると、岸信介首相が安保闘争の責任を取って辞めた代わりに、池田勇人が総理大臣に就任して所得倍增計画を打ち出します。どのように所得を増進させるかというと、一次産業から二次産業を増やそうという話になります。日本は「経済成長路線」にシフトします。その影響で工業化が進むことによって、集団就職を含めて、地方に住んでいた人たちが大勢、東京・名古屋・大阪の三大都市圏に移住します。そのため、この時期に農業人口がどんどん減っていく反面、国内の工業化が進むことになりました。1964 年には東京オリンピックが開催されました。日本が先進国の仲間入りをしていく時代が当時の日本社会です。1967 年には人口が 1 億人を突破します。

また、大量生産、大量消費の時代の始まりの時代でもあります。大型小売店のはしりのスーパーマーケット普及するものこの頃です。それまでは商店街で、肉なら肉屋に、魚なら魚屋に行って、肉や魚を何グラムくださいと言って、紙に包んでもらっていましたが、それが全部セルフサービスに変わっていく時代です。食べ物では、即席カレーやインスタントコーヒーなどが発売され、すぐに食べられる「即席」がキーワードになりました。お菓子では、今でもなじみのある「ポッキー」や「かっぱえびせ

ん」などが工場で大量に作られて、スーパーマーケットなど小売店を通じて流通します。それまでは駄菓子とか手作りのものが主流でした。

住むところについては、先ほど申しましたとおり、地方の人が一気に三大都市圏に移動することによって、住宅が不足します。それに伴って、例えば帝京大学の北にある百草団地や多摩平団地などの団地が東京の郊外に造られるようになっていきます。当時の間取りは基本的に2DKだったようです。家の中では、ガスと電化がかなり進むようになります。これまではかまど等でご飯を炊いていましたが、電気が普及してご飯を炊くのが電気釜になるなど、家事の効率はかなり上がった時代です。また、「三種の神器」というものがありました。1950年代には洗濯機、テレビ、冷蔵庫だったのが、新三種の神器として、クーラー、カラーテレビ、車に。この頃に「マイカー」という言葉がはやりました。それまではほとんど車など持てなかったのですが、少しお金持ちなら手が届くようになり、だんだん豊かになってきました。その反面、公害などもあった時代です。

続いて帝京大学ができた時代の大学と大学生はどんな様子だったのでしょうか。1960年には日本国内の大学数が245校でした。10年後、1970年ごろには382校まで増えます。ここだけ見るとあまり増えた気がしませんが、在籍者数を見ると1960年代の60万人が、70年代には100万人を超えて2倍以上の数になっていきます。これは主に戦後のベビーブーム世代が進学年齢に達したことや、所得が倍増して余裕ができたことによるのですが、最大の、また隠れた要因として、日本全体が工業化したということがあります。それまでは農家の長男などは大学に行く必要がなかったのですが、そのような人々大学に進学するようになります。工業化に伴い企業も、中卒ではなく事務仕事などの基礎を持った大卒の生徒を欲しがるようにになります。全体的に、企業文化の中でも学歴主義が浸透していく時代です。

そのため、大学が、特に私立大学が入学定員をどんどん増やします。その結果、何百人単位の学生が入るような大講堂での授業や、場合によっては教室から学生が溢れるような状況で授業が行われるようになっていきます。これらの状況は当時、「マスプロ（大量生産）」という言葉で批判される対象にもなりました。このように大学が急速に変化したことによって、授業料が上がるなど、いろいろな問題が出てきます。それに対して、学生が異議申し立てをし、運動を起こすことになります。それが激しくなっていく時代です。

これは1960年代くらいの帝京大学ができる前のキャンパス周辺の様子です（図1）。完全に山の中です。写真の中央にキャンパスが建設されました。そして1969年の頃の大学の様子です（図2）。鯉のぼりがあるので4月～5月頃だと思うのですが、現在残っているのは2号館という建物（2017年解体）と、幼稚園です。農村に突然、近代的なビルができたような風景です。

ここから水落さんにお話を聞かせていただきたいと思います。このような時代に、水落さんが帝京大学に入学することを選んだ理由と伺いますか、どのような経緯で入学されたのですか。

**【水落】** 堀越さんがおっしゃったように、昭和30年から後半、40年くらいまで集団就職の時代だったのですね。私はもともと新潟の田舎生まれですから、次男坊は中学を出たら都会に出て行って仕事をする。女の子は近くの十日町織物、日本三大絹織物の産地でしたから、十日町に行って職工さんになる。高校に行く人は、私の村は60何世帯しかなかったのですけれども、1人か2人で、クラス全体でも2人くらいでした。私も都会へ出ていくことになりました。当時、電化製品が非常に普及し始めました。これからの時代は電化製品だということで、商人になろうと思ひまして、東京の神田の石丸電機という、200件くらいあった問屋の中で3番目に大きな問屋に就職しました。

そこに1年10カ月いたわけですが、一生懸命やっていると非常にかわいがってくれる人と、やっかみが出てくる人が世の中にはありまして、ある幹部が私のことをやっかんだのでしょ、私の行動を会社の幹部会議で歪曲して報告したのです。そんなことがあり、人間は学問をしていないと、物事をきちんと考える力、相手方への接する力、人間的な、知的なことを勉強しないとあのようになるのだと認識して、兄貴に電話をかけて、「自分はもっと勉強をしたい」と伝えました。本当は職人になろうと思ったのです。手に職を付けるということは、生きていく中で自分の才能を発揮できていいのではないかと思います、今さら学校を出してとは言えないものですから、職業訓練所に入れないかと。そうしたら兄貴が「職業訓練所の募集はもう終わったよ。定時制高校なら入れるかもしれない。今から勉強してみてもどうか」と言ったのです。当時、県立高校は各市に1校くらいで、2校ある場合は、1校は実業高校とか農業高校で、だいたい普通科は1つの市に1カ所でした。私の十日町市は十日町高校。実際に出たのは小千谷高校です。小千谷で叔母が料亭をやっていたので、ひとつ離れた市、小千谷に行って、定時制に入ることができたのですね。

ですが昼間の高校とは違い、そこで自分の考えるような青春や勉強はできないのです。そこで大学に進学したいと思うようになりました。進学の動機として、大学で勉強したいという気持ちはもちろん強かったのですが、青春を送りたい、何も拘束のない、法を守る以外何の社会的責任もない青春を送りたいという気もありました。夜間部の高校では駄目なのです。真っ暗な社会ですからね。青春といっても月を見ながらの青春というものなかなかおかしいので、大学は昼間に行きたい。「勉強をしたいなら夜間部もあるよ」とも言われたのですが、「俺の青春は昼間の大学だ」と。それで探していたら、他の大学も受けたのですが、受験科目が多いのです。昼間仕事をしながらですと、なかなか勉強時間がとれない。高校の先生が「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たるよ」と言うので、「先生、下手な鉄砲はいくら撃っても当たらないんですよ」と言い返しました。それで受験できる大学を探して、厚い入学案内がまとめられている冊子を見ていたら、できて3年目の帝京大学が1科目で受けられると発見しました。それで「あ、これだ！」と思い、日本史は徹底的に和歌森太郎著の『よくわかる日本史』を暗記するほど勉強していましたので、日本史で受けて合格させていただきました。その時、先生から「帝京は面接試験があるんだよ。必ずうちの大学をな

ぜ志望したかと聞かれる。私が面接官だったらそう聞くから、どう答えるか」と質問されました。「どう答えましょうか。他はみんな落ちたとか、入るところがないからとか言ったらまずいですよね」と答えると。先生に「そう言ったらだめだ」といわれました。それで、先生が教えてくださったのは、「鶏頭となるも牛尾となるなかれ」（大きな集団の中で尻にいて使われるよりも、小さな集団であっても長となるほうがよい）と故事成語です。そうしたら、面接官の商法の橋本先生と国際法の粕谷先生に、案の定聞かれました。私は、「鶏頭となるも牛尾となるなかれ」について申し上げて、「頑張ります」と意気込みを示してお伝えして、合格させていただきました。

私は、自分の人生が完全に帝京大学によって決められたと思っています。一緒にの学年に入ってきた同級生が皆さん、信じられないような素晴らしい人達でした。1組と2組がございまして、1組は、帝京高校や日大付属など付属高校からの方々が入っていました。私がいた2組の人たちは、例えば海上保安官を2年で辞めてから入ってきた人や、様々な悩みを持っている人たちなど、いろいろな方が集まっていました。日本全国から集まってくる中で、この人達はどうしたらこんなに素直に優しくなれるのかと思いました。交わっているうちにたくさん吸収することがあったと思います。いろいろなことが勉強できました。学問については、法学は授業に出るだけでは覚えられないものではありません。私は、ものを覚える下地をつくるのは大学だと、入ってから思いました。酒が好きだったものですから、いろいろな仲間といつもコンパをしていました。家が貧しかったのでアルバイトをしました。2組はアルバイトをしている人が多かったです。キューピーやサントリーなどの日払いでお金をくれる会社に大分行っていました。2組の人たちは1組の人たちとは交流がありませんでした。また、2年生までは一般教養科目があって、経済学部や文学部の人と一緒にの教室で英語や日本史を勉強しました。楽しい人たちでしたね。東北や九州から出てきた人が集まっていたので、地域性があって、ものの考えも異なっていました。私は司法研に入らせていただいて、そういう人と人との交流の中で、今にまで続く付き合いの発端といえますか、ゲートが開かれたと思いますね。

幸福とは何ぞや、幸せとは何ぞやというのは、皆さん個々で違うと思いますし、定義自体が難しいと思うのですが、70歳という、いつでもお迎えが来るような年になりまして、これまで本当に幸せに送らせていただけて、いろいろな人と出会えたきっかけが、帝京大学に入学して生まれたのだと思っています。本当に感謝感激で、帝京大学には恩義があります。

**【堀越】** 帝京大学に入学したことによって、いろいろ道が開けたということですね。

**【水落】** そうですね。

**【堀越】** 先ほどアルバイトの話も出ましたが、東京に出て生活するというのは、当時はどうだったのでしょうか。イメージは風呂無しトイレ共同の4畳半での生活です。東京で最初に暮らされた当時はいかがでしたか。

**【水落】** 最初は牛乳屋に入りました。新聞配達とか牛乳屋は、朝配達するだけで、次の朝に配達するまで時間が取れるというメリットがありました。先ほど申しましたキューピーマヨネーズやサントリーなどの会社のことは知らなかったのですが、新潟から出てくる時、まずは牛乳屋に高校の先輩をコネクションに入れていただいたのです。アルバイトをする場所はあまりなかったのですが、学生は牛乳や新聞の配達が多かったです。そういう学生を随分知っております。仕送りもそんなに多くできるはずはないのです。そのような中で、自分で働きながら生活費の一部を賄うために、アルバイトは必須でした。私の場合は牛乳配達でしたが、実は12月に辞めました。なぜかという、1年生の時に体育実技で、軽井沢の塩壺温泉にあるスケートセンターでの2泊3日の研修があったのです。その単位を取らないと卒業単位になりません。牛乳屋の親父に言ったら、「駄目だよ。辞めるしかない」と言われて、体育実技に参加するために牛乳屋を辞めました。

それからは、無宿渡世というか、転々のアルバイト生活で、宿も友達のアパートに居候したのですが、4畳半の部屋です。共通なのは、どの学生さんのアパートも必ず自分の手が届くところに生活必需品がある。一見乱雑風ですけれども、実に合理的な配置になっています（笑）。友達のアパートが調布の深大寺にあったのですが、「俺、大学をやめるよ」と言い始めました。なぜなら、毎日のように居候した部屋に私の友達に来て飲んでいたので。彼に悪かったと思います。彼はその後、関西の大学に入りました。彼は私の学生時代の恩人です。会ったら謝りたいと思います。彼がやめてしまう、出てしまうと、私は行き先がなくなるので、飛田給に四畳半のアパートを、まさにこんなところですが、借りました。バス・トイレなしで、家賃は1カ月に5,000円でした。もっとも、あの頃、桜ヶ丘の駅からここまでのバスが20円、新宿から桜ヶ丘までの1カ月の定期代は870円です。その中で5,000円は意外と高いのです。そこにアパートで入りまして、こういう生活をしながら、細々とした仕送りと、お酒がなくなって飲みたくなるとアルバイトをしました。

**【堀越】** 普段は何を食べていらっしゃったのですか。

**【水落】** 食生活は実に貧しいですね。味噌と醤油、若干の野菜と米です。これは田舎から送ってくる。農家ですから。ただ、副菜の肉や魚がなかなか買えない。マルシンハンバーグを召し上がったことありますか。今でも売っています。75円くらいですね。両面にラードが塗ってあるので油が要らず、フライパンにのせてひっくり返しさえすれば焼ける。それに醤油をたっぷりかけて、真ん中で切って2食で食べていました。そうしたら、近くの乾物屋のおかみさんが「あなたは貧しい生活しているね。学生さんは辛いね」ということで、「中学2年生だけど、3人の面倒を見ないか」と。週に1時間半ぐらい、私のアパートで、3人の中学2年生に数学・国語・英語を教えました。1カ月に1人2,000円、3人で6,000円の収入になりました。みんな、近くのお店の人も大家さんも非常に優しい人で、「学生さんなのだから」という目で見てくださいました。こんな事もありました。友達が飲みに来る時に、野菜がなくて、夜中に盗みに入って、隣の大根畑から勝手に取ってきたのです。その時に、さび付いた有刺鉄線でお腹を切って、ランニングシャツの腹部分が血に染まってしまいました。大根を玄関のドアを開けたところに置いておいたら、「水

落さん、電話だよ」と大家さんが起こしに来て、ランニングシャツが血に染まっているのを見て、「何、それ」とびっくりしていました。玄関の横には大根がいっぱいあるし、「大根を取る時にね」と理由を察していました。びっくりなのが大根を盗ったことは全く責めないのです。これはこれでどうかと思うのですが（笑）。周囲の方々が非常におおらかでした。貧しいながらも、お金がないことが全然苦になりませんでした。友達と飲んでも、おごるとかおごられるという概念がない。お金を持っている者が出す。学生さんは今でもそうだと思います。同じゼミだった仲間と今も付き合っています。奈良の弁護士会の元会長で、法テラスの仕事をしている人がいますが、彼が今一番お金を取っているのです、この前も奈良に行った時に料亭でご馳走になったのですが、お金を持っている者が出す。何十万かかろうが、こちらは出すと言わないですね。そういう付き合いが大学時代から始まって、今も40何年続いています。

**【堀越】** アルバイトではどれくらい稼いでいたのでしょうか、学生アルバイトは1,000円くらいですか。

**【水落】** 日収1,000円くらいでした。サントリーの工場が1,200円で、120円の昼食を食べて、1,080円をもらって帰った。現金をもらって、府中に飲み屋がたくさんあるのですが、焼酎を買って帰る。また、アパートに帰ると友達が待っていて、「水落、1,000円稼いできたか」などと言って、当時最も安かった380円のオーシャンウイスキーを飲みました。

**【堀越】** 現在『an』というアルバイト情報誌がありますが、1967年くらいに学生向けの情報誌として『日刊アルバイトニュース』ができました。これが『an』の原形ですが、そこでアルバイトをされていたのですね。

**【水落】** 実は、私は大学3年生の時に結婚しました。法学部の馬場一廣先生のゼミに入っていて、「水落くん、まだ早いんじゃないの。逃げたらどう？」なんてこともあったのですが、大学3年の3月4日に結婚式をしました。女房は定時制の同級生です。岐阜県にある中京女子短大を卒業して、保育士として東京都の職員になっていました。東京に出て来て、私のところに「東京に来ました」と連絡があったものですから、高校の同級生にも「水落、まだ早いよ。やめろよ」などと言われましたが、逃げ切れなかった（笑）。それで一緒になりました。大学3年生の春です。それまでは誰にも責任を負う必要がなく、自分自身が食べて健康を維持さえしていれば、ものを考えるのも行動も自由でした。ところが、結婚すると仕送りが止まるのは当たり前ですね。男は嫁さんを貰ったら一人前だと。仕送りは止まる。女房は就職して働いておりますけれども、亭主としては生活費の半分くらいは決まったお金を入れなければいけない。そのため、日銭を稼ぐどころではなく、アルバイトをしなければなりません。それで、アルバイトニュースという会社に電話をかけたのです。そうしたら、「うちは職業の斡旋は職業安定法で絶対できない。アルバイト情報だけを流す会社だから。君はアルバイトをしたいのか」と言われて、「はい、したいです」と言ったら、「うちに来なさい」と。それでアルバイトニュースの会社でアルバイトをすることに決まりました。

練馬に住んでいたのも、中野にあるその会社へはバス1本でした。タイピストの女性がいて、タイプで作ったアルバイトニュースで、掲載料は3,000円から1週間くらい掲載して6,000円など、いろいろありました。私は記者、兼集金、兼営業でした。7カ月くらいやったのですが、会社から信頼されて、ずっと勤めなくてはならなくなりました。大学の授業は、3年生からはゼミなのですが、単位を取得しなくてはいけない科目がまだ5、6科目ありまして、4年生になればゼミだけなのですが、それでその会社を辞めました。今度は主婦の店というスーパーマーケットに時間単位で午後から何時間という形で入りました。3年生の春まではそういうアルバイトでした。それから、アルバイトニュースは『an』になった。あの頃はできてすぐの楽しい会社でした。酔っぱらって、次の日に掲載したものを持って行って、「このように御社の掲載広告が出ました」とお金をもらうのです。定期掲載というのがあって、その契約を取ると何パーセントかもらえます。6カ月たないとたくさんもらえませんが。ある喫茶店では、「あなた、学生さん？ 定期掲載だと助かるでしょう」と。同情ですよ。歩合はそんなに多くはもらえないのですが、学生ということで、たくさん取っていただきました。学生は社会から暖かい目で見られていました。棒を振ったりしない学生はですよ。一般の学生は温かい目で見られていましたね。それがあの当時の学生全般にいえることだと思います。

**【堀越】** 当時の帝京大学八王子キャンパスの様子についてです。まずは、大学までの道のりを見てみましょう。これは聖蹟桜ヶ丘の駅です(図3)。皆さん、知っている方もいらっしゃると思いますが、1970年ごろに高架になります。この駅に最初に降り立ったわけですね。

**【水落】** とても懐かしいです。すぐ向こうがホームです。階段を渡って向こう側が上りになっていました。こちら側が下りですね(図4)。

**【堀越】** 駅前には学生街というよりも地元の人のための商店街が広がっていた。(図6)

**【水落】** そうですね。地元の人たちのマーケットでした。

**【堀越】** 次が聖蹟桜ヶ丘駅の70年の様子です(図5)。ここからバスに乗る(図7)。これが片道20円ですか。

**【水落】** 20円です。

**【堀越】** バスの本数はどのくらいありましたか。

**【水落】** 本数は少なかったです。授業が終わると皆さん一緒にバス停に集まるので、なかなかリラックスして乗れることはなくて、よく歩きました。大塚のバス停から駅まで、みんなでわいわいと。女子学生もいました。2組には女子学生が7人ぐらいいましたね。1組にはいなかったの、2組は憧れの的でしたね。体育もみんな一緒になってバドミントンなどをしました。大田先生という体育の先生が「女子、用具をみんなに配って」と言うと、女子学生がみんなに配っていくのです。好きな女の子が持つてくるのが待ち遠しいなんていう学生が、周りにたくさんいましたね。それが1年生の時です。その人たちと一緒にわいわい言いながら駅まで歩いたことが随分あります。もっとも、私の場合はその20円がもったいなかったということもありますね。

みんなを巻き込んで。

**【堀越】** 1969年ぐらいの空撮の写真ですが、右上あたりが帝京大学です（図8）。バスに乗って、これが野猿街道で、どんどん来るのですね。写真中央を蛇行しているのが大栗川ですが、今は護岸改修工事がされて直線になっています。実際、新潟から出てこられて、初めて帝京大学に来られたのはいつですか。受験する時は来ていないのですか。

**【水落】** 入学試験は、板橋の学校法人の本部で受けました。入学式があったかどうかは記憶にありません。入学当時はキャンパスに体育館がありませんでした。卒業式は完成した体育館でやった記憶があります。入学して、ガイダンスの前に1回、親父が「お前の入る大学のキャンパスを見に行くから」と一緒に来た時は、まだキャンパスが全部でき上がっていませんでしたから、ダンブが土ぼこりを立てながら構内を走っているという状態でした。入った時は、2号館、5号館（2017年現在は解体されている）がまだ建築中でした。

**【堀越】** 今はソラティオスクエアが建っている場所です。

**【水落】** 丘が大分削られていますね。70年ごろではないでしょうか。

**【堀越】** 1969年の撮影ですね。

**【水落】** 私が2年生の時ですね。上から見ると田舎というか、ほのぼのとした田園風景というか。

**【堀越】** 初めてみたキャンパスの印象はいかがでしたか。

**【水落】** 少しショックでしたね。大学というのは早稲田の大隈講堂のような高い時計の塔があるようなものをイメージしていた部分があるものですから。うちの親父が「何だ、これは」と戸惑っていました。でも、「これからの大学、俺が鶏の頭になったから」などと変なこと言って、納得してもらった。当時、入学金と授業料で18万円だったのですね。1日のアルバイトが1,000円の時ですよ。入学料を含めて18万で、それから授業料が年間9万ぐらい。9万でもすごいと思いますね。あの頃、日立の夏のボーナスが平均6万9,000円だったとか。そうすると、日立という大手の企業の夏のボーナスより高いです。今のボーナスにしますと百数十万だと思えますね。それが当時の年間の授業料でした。それを出しているスポンサーが何しろ親父なものですから。

**【堀越】** さてバスを降ります。これが大塚のバス停（図9）ですね。降りて、この道が大学の正門の前の道（図10）ですね。

**【水落】** こちらの学生さんが歩いている右の上にお寺がございまして、お寺で随分コンパをしました。今の学生さんがやっているかどうかは分かりませんが、コンパをすると心の琴線が触れ合いますね。大学生時代はコンパをたくさんやってほしいと思います。その中で友情が芽生えたり、酒で友情が芽生えるというのはおかしい話ですが、自分の本音をぶつけ合う機会になったりします。そういうわけで、しょっちゅうコンパがありました。お寺でよくやりました。住職さんが大暴れしている学生を見ながら目を細めましてね。とっても楽しいアフタースクールというか（笑）。

**【堀越】** ここを行くと、今も変わらずある正門（図11）に着きます。そして正門の先にある坂を登っていくと、2号館（図12）、そして電話ボックスがあります。そして、突然、牛（図13）がいます。私は卒業アルバムを整理しているのですが、必ず牛が出てくるのですね。何なのだろうと思っていたら、大学の南斜面に牛小屋があったのですね。

**【水落】** 斜面に。そうですね。正門からは見えない、多分、裏側のほうだと思います。

**【堀越】** それほど、のどかだった。ここはメディアライブラリーセンターが建っているところです。図書館（図14）ですね。

**【水落】** 今の体育館がバスケットコートの辺りですね。この辺に本部と就職課とかセンターが入っていました。

**【堀越】** ここに事務局があったのではないのでしょうか。

**【水落】** そうです事務局がありました。

**【堀越】** 写真の右手の建物が図書館です。今の本館の辺りになります。さらに右手は全部山ですね。

**【水落】** 実はここには国土交通省の三角点があります。丘の上で、おにぎりやお弁当を持ってきた人たちがランチタイムをやっていました。三角点がある場所ですから、多摩ニュータウンができ始めた頃ですね。西のほうに多摩ニュータウンの大きな建設機械が移動しているのが見えました。北東方向には明星大学のキャンパスがありました。非常に牧歌的でした。

**【堀越】** 芝生などはなくて、むき出しの土ですね。

**【水落】** 土ぼこりが酷かったです。ツツジなどは植えられていました。この写真を撮った季節が多分緑の多い季節ではないのだと思います。

**【堀越】** これが現在のメディアライブラリーセンターのほうから2号館を見た風景（図15）です。これがグラウンド（図16）ですね。今の蔦友館がある辺りですが、これはグラウンドではなくて野原のようですね。

**【水落】** はい。私が入った時には、当然グラウンドもありませんでした。体育館がないくらいですから。

**【堀越】** 帝京大学生はどんな感じの人たちだったのでしょうか。学生服の生徒（図17、18）が多かったのでしょうか。

**【水落】** ほとんど学生服でした。私は帝京大に入って1着新調しましたので、2着持っていました。今はオリエンテーションと言うらしいですが、入学のガイダンスで最初に大学に来て授業や履修の予定のレクチャーを受けたのですが、学生さんたちが潰れたような学生帽やバッジを売っていましたね。当然、私も高校の制服のボタンをみんな帝京大のものにして、蔦友館の蔦ですね、買まして、Jというバッジを付けました。ジュリストです。

優雅な人たちですね。今の2号館の1階に、軽いサンドイッチなんかがあった気がしますが、今拝見しますと、茶碗を持っていますので定食もあったのですね（図19）。

**【堀越】**外に行っても食べる場所がなさそうなので、どうやって昼食などっていたのかが疑問でした。学食はあったのですね。この写真（図 20）は男子学生と女子学生とがバランスよくいますが、ファッションは、普通にブレザーというか、はやりみないなものがあったのですか。

**【水落】**そうですね。この人たちは法学部の2期生くらいだと思います。中にはブレザーもいました。ただ圧倒的に学生服が多かったですね。

**【堀越】**就職課の様子（図 21）です。当時の帝京大生も就職活動を一生懸命するわけですよね。どのようなところに就職したのですか。

**【水落】**私は就職活動を全くやっていないのですね。ゼミの仲間もやっていません。ゼミの仲間でも今も付き合っている4人のうち、1人は司法試験のために全然就職するつもりがなく、1人は教員免許を持っていたので、東京都の教員に採用されました。もう一人は桜ヶ丘で初めての11階建てのカネシロビルという名前のビルを建てて、不動産業の実業家になりました。就職活動については、あの頃は「でもしか先生」といって、教員には簡単になれました。企業とか物産系などは、希望しても入れなかったと思います。できたばかりの大学で、コネクションがないことは大きなデメリットですね。先輩がいない。大きな企業はほとんど先輩が声を掛けたり、就職活動に呼んだり、縦の流れができていますよね。新しい大学の弱みは先輩後輩の関係でコネクションをつくれないうところでした。

先日、約20年ぶりに2組の同級会をしまして、住所が把握された24、5人のうち8割方出席して楽しく飲みましたが、誰がどんな会社に入って、どんな渡世というか、人生を送られたのか、あまり関心もないのですね。「今、何しているの？」などと野暮なことは聞かないです。みんないい顔をしていて、懐かしくて。ただ、名刺をもらったりすると、不動産屋とか行政書士とか、みんなそれなりにきちんと生業をもっています。また、信用金庫など地方銀行に就職して、地方公務員は私だけのようないがします。後輩には地方公務員もいます。市役所、区役所勤務など。石田正雄先生（元法学部教員）を囲む会という会で縦の後輩たちが集まったのですが、名簿の職業欄を見ると、警察官や区・市役所職員など地方公務員が多いです。ゼミの馬場一廣先生とも今もお付き合いがあるのですが、卒業して10年くらいたってからもお世話になったことがあります。上申書を書いていたのですが、昭和56年のことなので、47年に卒業してから9年目ですが、あたかも昨日別れたごとく先生に電話して、「先生、上申書をお願いします」と書いていただいたことがあります。卒業証書は頂いていますが、卒業したという記憶がないくらいです。卒業して3年か4年は、帝京大学の司法研究所の夏の合宿に呼ばれて平気な顔をして出ていたのですね。司法研究所に入れていただいたおかげで、いろいろな付き合いができていきました。私は就職活動をしませんでした。中にはこの写真のような熱心な人たちもたくさんいたと思います。多分、信用金庫とか金融機関とか、また普通の企業ですね。本当は大手企業よりも普通の企業のほうがいいのですけれどもね。ただ、大手企業を狙っても入れなかったと思います。

**【堀越】**当時は学生運動が盛んだったと思うのですが、帝京はそんなになかったと聞きました。

**【水落】**学生総会（図 22）が毎年1回ありました。これはその写真ですね。黒板に事案を書き上げていろいろなことを決めていました。

**【堀越】**帝京大学では、激しい運動はなかったと聞いているのですが、どうだったのでしょうか。

**【水落】**学生運動は、先ほど堀越さんがおっしゃったように授業料値上げ反対から始まって、それが70年安保の前哨戦に結び付いていくのですが、他の大学では学校封鎖、ロックアウトがありました。日本大学では日大闘争があって、日大経済学部でお金の問題、古田重二良という会頭さんがおられました。帝京は日大とは姉妹、子弟みたいな大学だと聞いています。（帝京大学の初代理事長沖永莊兵衛は日本大学出身、評議員も務めた。古田重二良とは昵懇であった。）学生運動については帝京も実はあったらしいですね。政治に対する批判とか意見を持っている学生がいました。でも彼らは、ヘルメットをかぶって流行になっていることをやっても解決はしないという考え方があったのでしょうか。冷静に自分の意見を通していこうとする。つまり、言論は言論をもってという方法をとっていたみたいですが。ただ、うわさによると、1号館にあった大学事務局に、ヘルメットをかぶって覆面をして、ゲバ棒を持ってバァーっと入っていった人がいたそうです。そうしたら、事務局の人が「〇〇さん、やめなさい！」と言った。覆面していても誰だか分かるのですね。それで、入っていった人はひるんで黙って帰っていった。その後、処分を受けたという話は全く聞きませんでしたね。帝京は、学生の気持ちを考えて処分などは全くせずに、優しいのだなと。アットホームな大学だと思っています。でも、そういうリベラルな考えを持った学生はいっぱいいました。他の大学に行って参加している人もいました。なぜなら、大学に登校する時に青色のヘルメットをぶら下げている学生がいましたから。大学内では活動しなかったのですが、他の大学で参加した帝京の学生はいました。

**【堀越】**そんなアットホームな大学の授業の様子です。これは国文学科の授業（図 23）で、こちらは法学部（図 24）です。アルバムの中に大教室での授業の写真がほとんどありませんが、少ない人数だったのですか。

**【水落】**そうですね。2年生のときは3学部、文学部、法学部、経済学部の全員が一般教養を受けなければならなかったのです。大教室を使っています。

**【堀越】**これが今残っている2号館（2017年に解体）の、50年前の大教室での講義の様子です（図 24）。

**【水落】**懐かしいですね。最初の1、2年の頃は、出席をとるのも本当におおらかで、代返、試験のカンニング、これはどこの大学も同じだと思いますが、私などは何人やったか、何人にやっていただいたか。一般教養の試験は、第二外国語を含めてそうなのですけれども、私はフランス語で、周りにみんな集まるのですよ。「水落くん、他は俺が教えるから、お前はフランス語の担

当になってくれ」と。フランス語の時、私を中心にして周りにフランス語カンニングの仲間が集まる。「お前、あれ、間違っていたじゃないか」なんて、後で叱られたりすることもありました（笑）。みんなで分担して分業制ですから、大体、優を頂いていました。

**堀越** このアポロ 11 号の月面着陸船が写っている写真は何でしょうか。

**水落** 体育実技の単位を取得するのに必須な課外授業で行った、軽井沢のスケートセンター（図 25）です。これに 2 泊 3 日参加しないと、体育実技の単位が取れなかった。それで牛乳屋を辞めざるを得なかったわけです。

**堀越** サークルですけども、水落さんはサークルに入ってらっしゃらなかったということですね。

**水落** 文化的なサークルには入れる経済力もなく、サークル活動に参加する意思もなく。司法研だけです。これはラグビー（図 26）ですね。帝京大学はラグビーが素晴らしいですね。私は誇りに思っています。私だけではなく、全卒業生、在学生の皆さんも誇りに思っていると思います。ラグビー部は、高橋明という学生が私のゼミの馬場一廣先生に相談して、早稲田や明治と一緒にリーグで戦えるようになった。野球では早稲田・明治は六大学ですが、帝京は首都大学で、東京教育大、今の筑波大や、大東文化大と同じリーグですね。

**堀越** 人数が足りなくて人を集めていたという話を聞いたこともあります。

**水落** これは野球（図 27）ですね。ちょうど私たちが入った頃、野球は首都大学リーグで活躍なさっていましたね。

**堀越** 応援団（図 28）もあるのですが、これが結構頑張っていたという。

**水落** そうです。応援団は男意気に感ずる、「花の応援団」という漫画がとてもはやったのですが、それに似ていましたね。団旗はものすごく重いらしいです。拓大の応援団とけんかして、ものすごく大きな応援団の看板を裏返して帰っていくということもあったそうです。この人たちがいるおかげで、きっと硬派の帝京大生がおられるのではないかと思います。

**堀越** これは空手（図 29）とか、自動車部（図 30）ですね。

**水落** 自動車部はボンボンの集まりですね。これはトヨペットクラウン、懐かしいですね。最初の頃のもので。ボンボンが多いですね。それから、私たちみたいにいろんな社会から集まった。話は戻りますが、法学部を 1 科目で受験できる大学を探しましたが、帝京大学だけでした。門を広くして、将来の夢を持った人を迎え入れるという姿勢をとっても尊敬しております。法学部で他にそういうところはなかったので、帝京大学は可能性があったわけです。自動車部という、どちらかといえば楽しい部でありながら、皆さん、きちんと学生服を着ていますね。加山雄三なんかも若大将シリーズで学生服を着ていましたね。

**堀越** これは文科系のサークル（図 31）、これは剣道部（図 32）ですね。

**水落** これは中里さん（元帝京大学教育学部講師・帝京大学法学部 2 期生）が入っていた剣道部ですね。ご存じだと思いますが、2 年位前にお辞めになられた。同級生の。素晴らしい剣士というか、剣道の達人。

**堀越** これは帝京祭（図 33）です。今は青舎祭といいますが、当時は帝京祭といっていたそうです。このようなキャンプファイヤーですか、ファイヤーストームを。

**水落** 懐かしいですね。ところが、私のようにアルバイトで生計を立てていると、堂々とアルバイトに専念できるのはこういうお祭りの時ですから、参加できなかつたと思います。

**堀越** その他、運動会（図 34）や自動車ラリー（図 35）を開催していたのです。水落さんが参加されていた司法研究所では模擬裁判をされたそうですね。

**水落** これは 1 年後輩の司法権の人たちが開いた模擬裁判のキャストです。私どもの時は業務上過失致死事件なのですが、これですね（図 36）。この時に着ていたのが、先ほど言ったこの背広です。これは証言台です。廷吏ですね。それから裁判官が法服を着ているのですが、これは当時、新宿の河田町にフジテレビの美術センターがありまして、そこで作ってもらったものです。大学がお金を出してくれて、高かったのですよ。廷吏の服装とか警察官の服装とか裁判官の法服など、全部借りてきまして、大学からお金を出してくれました。こういう行事をする際には大学に随分協力していただきました。この証言台も河田町から持ってきたのですが、簡単な包装をただけなので、パッと見ると、時代劇に出てくるような昔の棺桶に見えるのです。棺桶を半分に切ったようなものなのですが、それを紙に包んで、みんなでわっしょいわっしょいと電車とバスを乗り継いで持ってきました。こっちのほうに人が入っていると、半分には切れていますから、棺桶に入っているように見えますよね。でも一生懸命になって。今、どうなったのでしょうか。とっくに燃やされてしまっているでしょうね。懐かしい思い出です。眼鏡をかけていませんね。

**堀越** お世話になった先生としては、先ほどの馬場先生でしょうか。

**水落** そうですね馬場一廣先生です。今も新橋の馬場・澤田法律事務所で、娘婿さんと、弁護士 12 人ぐらいと一緒にやっています。「先生、とにかくほげないように事務所にだけは出てください」と申し上げて、2 カ月に 1 回、ご自宅にお伺いしています。

**堀越** 先生からは、どのようなことを学びましたか。

**水落** 馬場先生から「人生における出会い・めぐり合いの大切さ」を学びました。帝京大学は司法研に司法試験に受かった修習生を講師として招いてくれたのですが、その講師の人たちと、私はずっと付き合いがありました。広島高裁の総括判事を務めた後、学習院大学の法学部の教授になられた、裁判官のバイブルといわれている『和解技術論』を書いた草野芳郎先生と、足立武士先生という弁護士、芸能界の五木ひろしや松田聖子などを手掛けて、もう亡くなりましたが、その方との出会い。「人生」について多くのことを学びました。この出会いも馬場先生とめぐり合ったおかげです。先生は娘の名付け親でもあり、ゼミの仲



間全員の仲人でもあります。大学2年の夏からお付き合いをさせていただいています。

**【堀越】**最後の質問になりますが、帝京大学で学んだことですが、道が開けた、得たものは何でしょうか。

**【水落】**帝京大学に入れていただいて学んだことは、どうしたら将来自分は幸せになれるかということです。人と人との関係を本当に大事にしなければ、自分は幸せになれない。そして、人にも幸せを与えられない。それは、大学に入ってから、非常に純粋な同じクラスの仲間たち、他の学部の人たちとの交流の中で得られました。それは大きな大学では得られなかったと思います。帝京大学に入ってくる人たちは若干のコンプレックスを持っている。つまり精神的に弱い部分があったのですね。弱いというか、あまり感じてはいけませんが、当時は感じるのは自然だと思っていました。そういう中で、もっと自分を磨かなければこの人たちと付き合いいけないという強迫観念のようなものがあつた。学ぶというのは、人と人のヒューマンリレーションというのでしょうか。法律にはものすごく哲学的な面があります。物事の筋道を立てて考えていく。そうすることによって相手方との人間関係が。もう一つは、自分の将来のものの考え方、あの人はしっかりしているというので信頼を受けていく。信頼を受けていくと、いろいろな仕事を与えられる。与えられると、その中でいろいろな人の面倒を見たりすることができる。その人たちから慕われるという、いろいろな連鎖がある。それは帝京大学という当時開設した大学に入れていただいたおかげだと思っています。

それから、一般の大学生と同じように、何の責任もなく物事を自由に一生懸命考える時間は、大学生にとって青春のために絶対必要だと思います。大学生活の4年間は人生の中で一番貴重だと思います。この4年間でどのような過ごし方によって、与えられた自由な中で自分の将来の礎が、精神的な面でできると思います。人に優しくなるためには、自分が対人との関係を学ばなければそういう気持ちにならないですね。そういう気持ちになってくると、相手も気持ちがよくて幸せだし、自分も幸せだし、けんかもないです。いい出会いは絶対に必要だと思います。そのためには、自分が人間関係、ものの道理を勉強しなければいけないと思います。それができるのが大学です。私は高校生に、4年間、大学生活を送ったらどうですかと勧めたいです。ただ、今は心配しているのは、就職活動は3年から入るでしょう。4年間は、自由にものを考えて、自由に行動する時期であってほしいと願っているので、3年生のうちに自分の将来の職場を選ばなければいけないという時間的な制約は、悲しいことだと思います。長くなりました。貴重な時間をありがとうございました。

**【堀越】**最後の言葉を頂きました。

これで、公開座談会を終了させていただきます。講師の水落さんに拍手をお願いいたします。(拍手)



図1 八王子市大塚地区航空写真(1960年頃)



図2 帝京大学全景(1969年頃)



図3 聖蹟桜ヶ丘駅(1969年)



図4 聖蹟桜ヶ丘駅ホーム(1969年)



図5 聖蹟桜ヶ丘駅 (1970年)



図6 聖蹟桜ヶ丘駅周辺の商店街 (1969年頃)



図7 聖蹟桜ヶ丘駅のバス乗車風景 (1969年頃)



図8 帝京大学周辺航空写真 (1969年)



図9 大塚バス停 (1969年頃)



図10 正門に続く道路 (1969年頃)



図11 帝京大学正門 (1969年頃)



図12 キャンパス内の電話ボックス (1969年頃)



図 13 牛舎 (1969 年代後半)



図 14 1号館と図書館 (1968 年頃)



図 15 1号館から2号館を望む (1970 年頃)



図 16 グラウンド (1968 年頃)



図 17 学友会のみなさん (1969 年)



図 18 フォークギターを弾く学生 (1969 年)



図 19 2号館の学生ホール (1969 年頃)



図 20 学生のファッション (1969 年頃)



図 21 就職活動 (1969 年頃)



図 22 全学集会の様子 (1960 年代後半)



図 23 文学部国文学科の授業 (1969 年頃)



図 24 階段教室での授業 (1970 年頃)



図 25 体育実技集中講義 軽井沢スケートセンター(1969年)



図 26 ラグビー部 (1969 年頃)



図 27 野球部 (1969 年頃)



図 28 応援団 (1969 年頃)



図 29 空手部 (1969 年頃)



図 30 自動車部 (1969 年頃)



図 31 経済学研究会



図 32 剣道部 (1969 年頃)



図 33 ファイヤーstorm (第1回帝京祭 1968)



図 34 運動会 (第1回帝京祭 1968 年)



図 35 自動車ラリー (第3回帝京祭 1970 年)



図 36 第3回帝京祭 司法研究所主催  
模擬裁判 (テーマ 殺人罪) (1970 年)

## 執筆者一覧

今村啓爾 帝京大学文学部史学科 教授・帝京大学総合博物館 館長

岡部昌幸 帝京大学文学部史学科 教授

水落寛二 帝京大学 OB（帝京大学法学部 2 期生・1968 年度入学）

堀越峰之 帝京大学総合博物館 学芸員

**帝京大学総合博物館 館報**

—創刊号—

2015・2016（平成27・28）年度

平成30年3月31日発行

編集・発行者 帝京大学総合博物館  
〒192-0395 東京都八王子市大塚 359  
電話 042-678-3675  
FAX 042-690-8231  
URL <http://www.teikyo-u.ac.jp/introduction/tum/>

印刷所 株式会社ムレコミュニケーションズ

**TUM**

TEIKYO  
UNIVERSITY  
MUSEUM